

若田清水久保遺跡

— 防災ステーション建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2024

高崎市教育委員会
株式会社環境保全センター
有限会社毛野考古学研究所

若田清水久保遺跡

— 防災ステーション建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2024

高崎市教育委員会
株式会社環境保全センター
有限会社毛野考古学研究所

例言

1. 本書は、防災ステーション建設工事に伴う若田清水久保遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市若田町字清水久保70番1に所在している。
3. 本調査および整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、株式会社環境保全センターに負担して頂いた。
5. 発掘調査は、高崎市教育委員会の監督のもと和久裕昭（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 発掘調査は令和16年3月4日～同年4月4日、整理作業は同年4月5日～9月30日の期間で実施した。
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「888」である。
8. 調査区全景を対象とする空撮は、和久が実施した。
9. 本書の執筆については、1を高崎市教育委員会、その他を和久、遺物の写真撮影は井上太（有限会社毛野考古学研究所）、遺物の実測・観察表作成は恋河内昭彦（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
10. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
11. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである（五十音順、敬称略）。

【発掘調査】 飯塚 實・井上友光・大滝喜代一・鬼形敦子・加藤安夫・柴野光彦・新開昌代・近田雅行・馬場陽典・松島裕樹・三原昭夫・山田明男・吉本健二

【遺構測量】 上原真澄・亀田浩子・柴田弘信（有限会社毛野考古学研究所）

【整理作業】 石川陽子・鬼形敦子・小野沢絹子・関野一枝・齋藤正美・瀬尾剛子・武士久美子・田村健志・富澤友里・半澤利江・真下弘美・舛田光代・山下奈邦子
12. 発掘調査の実施から資料整理・報告書作成にあたっては、次の機関および諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝申し上げます次第である（五十音順、敬称略）。

伊藤明宏 伊藤 洋 須藤義政 中澤和也 松井良一 株式会社始原社 株式会社トイーコーポレーション

凡例

1. 挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 挿図の縮尺は、図中にスケールを付けて表示した。遺物実測図の縮尺は1/4を基本とし、他の縮尺の遺物は番号の脇にその旨特記した。また、遺物観察表の計測値で用いた単位はcm、gである。
3. 土層・土器の色調の観察・記載にあたっては、『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修）を用いた。
4. 土層説明における含有物の量は、多量（50～30%）・中量（25～15%）・少量（10～5%）・微量（1～3%）を基本とし、より高率・多量は「主体」、より低率・少量は「ごく微量」とそれぞれ表記した。
5. 遺物観察表中の法量欄について、推定復元による場合には（ ）、残存値には[]をつけた。
6. 遺構の略称は、竪穴建物跡：SI、溝：SD、土坑：SK、ピット：Pとした。
7. 本書掲載の地図は、いずれも真上が北である。出典・引用元は、キャプションの脇に表記した。

目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の経過概要	4
IV 基本層序	5

V 遺構と遺物	6
第1節 概要	6
第2節 竪穴建物跡	6
第3節 溝	32
第4節 土坑・ピット	33
第5節 遺構外出土遺物	35
VI まとめ	36
写真図版 / 報告書抄録	

図表目次

第1図 調査区位置図	1	第19図 S1-6 出土遺物	23	第2表 S1-2a・2b 出土遺物観察表	13
第2図 高崎市および遺跡の位置	2	第20図 S1-7・S1-7 出土遺物	25	第3表 S1-4 出土遺物観察表	18
第3図 周辺の道跡	3	第21図 S1-8	26	第4表 S1-5 出土遺物観察表(1)	20
第4図 基本層序	5	第22図 S1-8 出土遺物(1)	26	第5表 S1-5 出土遺物観察表(2)	21
第5図 調査区全体図	6	第23図 S1-8 出土遺物(2)	27	第6表 S1-6 出土遺物観察表	24
第6図 S1-1(1)	7	第24図 S1-9	28	第7表 S1-7 出土遺物観察表	25
第7図 S1-1(2)	8	第25図 S1-9 出土遺物	28	第8表 S1-8 出土遺物観察表	27
第8図 S1-1 出土遺物	8	第26図 S1-10	29	第9表 S1-9 出土遺物観察表	28
第9図 S1-2a・2b(1)	10	第27図 S1-10 出土遺物	29	第10表 S1-10 出土遺物観察表	29
第10図 S1-2a・2b(2)	11	第28図 S1-12・S1-12 出土遺物	30	第11表 S1-12 出土遺物観察表	30
第11図 S1-2a・2b 出土遺物	12	第29図 S1-13	31	第12表 S1-13 出土遺物観察表	32
第12図 S1-3	14	第30図 S1-13 出土遺物	32	第13表 SD-1 出土遺物観察表	32
第13図 S1-4~6・11(1)	15	第31図 SD-1	32	第14表 SK-4~6 出土遺物観察表	34
第14図 S1-4~6・11(2)	16	第32図 SD-1 出土遺物	32	第15表 土坑一覧表	34
第15図 S1-4 出土遺物	17	第33図 SK-1~7	33	ピット一覧表(1)	34
第16図 S1-5 出土遺物(1)	19	第34図 SK-4~6 出土遺物	33	ピット一覧表(2)	35
第17図 S1-5 出土遺物(2)	20	第35図 遺構外出土遺物	35	第18表 遺構外出土遺物観察表	36
第18図 S1-6	22	第1表 S1-1 出土遺物観察表	9		

写真図版目次

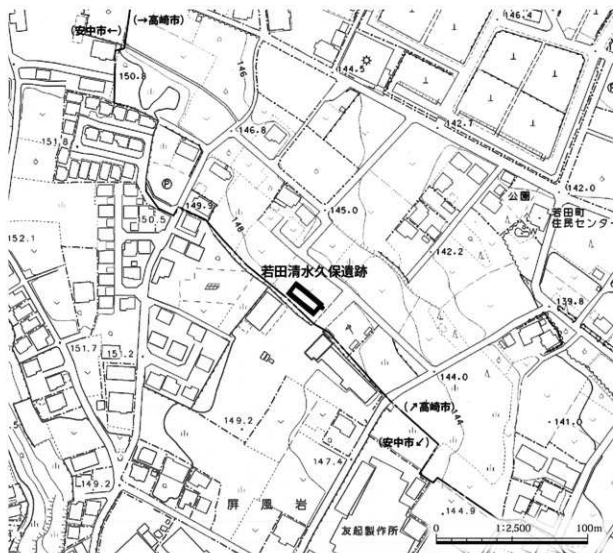
P.L. 1 調査区全景 (上が北東)	S1-6・7 (東から)	SK-4 (南東から)
調査区遠景 (北西から)	S1-6 掘り方 (西から)	SK-5 土層断面 (西から)
P.L. 2 S1-1 (南から)	S1-6 遺物出土状況(1) (西から)	SK-6 土層断面 (西から)
S1-1 掘り方 (北東から)	P.L. 5 S1-6 遺物出土状況(2) (西から)	SK-7・SP-14・15 (西から)
S1-1 遺物出土状況 (南から)	S1-6 遺物出土状況(3) (南東から)	P.L. 8 S1-1 出土遺物
S1-1 遺物出土状況(近接, 西から)	S1-6 カマド (南から)	S1-2a・2b 出土遺物(1)
S1-1 sk1・sp1 (東から)	S1-6 カマド掘り方 (南から)	P.L. 9 S1-2a・2b 出土遺物(2)
S1-1 sk3 (北から)	S1-7 (東から)	S1-4 出土遺物
S1-1SK-6・SP-10~13・16 (南から)	S1-7 掘り方 (東から)	S1-5 出土遺物(1)
S1-2a・2b・10 (東から)	S1-7 sk1 遺物出土状況(東から)	P.L. 10 S1-5 出土遺物(2)
P.L. 3 S1-2a・2b 掘り方 (東から)	S1-8 遺物出土状況 (南から)	S1-6 出土遺物(1)
S1-2a・2b 遺物出土状況 (南西から)	P.L. 6 S1-8 土層断面 (南西から)	P.L. 11 S1-6 出土遺物(2)
S1-2a 遺物出土状況(1) (北西から)	S1-9 掘り方 (南西から)	S1-7 出土遺物
S1-2a 遺物出土状況(2) (北から)	S1-10 (南から)	S1-8 出土遺物
S1-2a カマド (西から)	S1-10 炭化物出土状況(南東から)	S1-9 出土遺物
S1-2b カマド (東から)	S1-11 (北東から)	S1-10 出土遺物
S1-2b カマド掘り方 (東から)	S1-12 (北西から)	S1-12 出土遺物
S1-2b sk1 遺物出土状況 (北西から)	S1-13 (南西から)	P.L. 12 S1-13 出土遺物
P.L. 4 S1-3 (北から)	S1-13 掘り方 (南西から)	SD-1 出土遺物
S1-4 遺物出土状況 (東から)	P.L. 7 SD-1 (北が上)	SK-4 出土遺物
S1-4 掘り方 (東から)	SK-1 (北から)	SK-6 出土遺物
S1-5 遺物出土状況 (北から)	SK-2 (北西から)	SK-5 出土遺物
S1-5 掘り方 (東から)	SK-3 (南東から)	遺構外出土遺物

I 調査に至る経緯

令和5年9月中旬、事業者から高崎市若田町において計画している防災ステーション建設工事に先立ち、埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である13H05遺跡、若田13-2遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法（以下「法」とする）第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和5年10月30日、法第93条第1項の規定による届出と、埋蔵文化財確認調査依頼書が提出され、令和5年12月14日に確認調査を実施した。その結果、古墳時代～平安時代の集落遺構を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、建物工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については若田清水久保遺跡とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和6年2月14日に事業者：株式会社環境保全センター・民間調査機関：有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



第1図 調査区位置図

* 高崎市発行1/2,500「高崎市都市計画基本図」、安中市発行1/2,500「安中市都市計画基本図」を一部改変のうえ作成

Ⅱ 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

若田清水久保遺跡は、群馬県高崎市若田町字清水久保に所在し、東流する烏川と碓氷川に挟まれた八幡台地上に立地する。八幡台地は、巨視的には標名山南東麓に位置し、地形的には火山噴出物や火山から運ばれた土砂が堆積してできた台地で、第三紀層堆積岩からなる秋間丘陵に接する西から東へと緩やかに傾斜し、若田町から八幡町付近では谷筋によって北側の若田支台、中央の中原支台、南側の八幡支台、大きく三つの支台に分かれる。

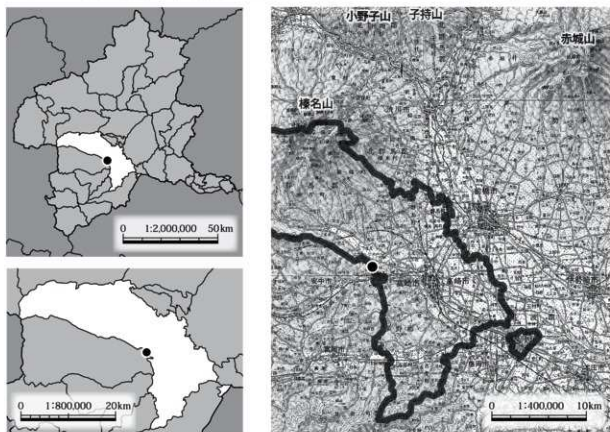
本遺跡は中原支台の南側縁辺部に位置し、清水久保という字名は湧水と谷地形に関わる名称である。八幡台地を横断して県道前橋安中富岡線が北東-南西方向に走り、台地の北には国道406号線が西北西-東南東方向に、南には国道18号線とJR信越本線が東西方向に走る。国道18号線は近世中山道を踏襲し、その走行方向は、関東と信濃を結ぶという意味で、古代東山道駅路と概ね一致している。

第2節 歴史的環境

若田清水久保遺跡(1)が立地する八幡台地には多くの遺跡が存在する。以下、時期ごとに概要を記す。

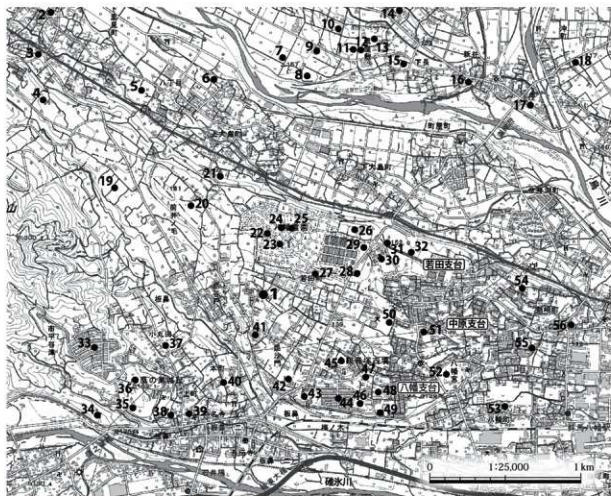
〔旧石器時代〕秋間丘陵南東端の緩斜面に位置する古城遺跡(33)でAT下のブロックが多数確認され、ナイフ形石器・削器・局部磨製石斧等の石器が出土している。

〔縄文時代〕草創期の遺構は確認されていないが、剣崎長瀬西遺跡(32)で爪形文土器・多縄文土器や有舌尖頭器等がまとめて出土し、大島原遺跡(30)で剣先形尖頭器、八幡中原遺跡(50)と八幡遺跡(44)で有舌尖頭器が出土している。若田原遺跡(23)で前期末から後期の竪穴建物跡27軒が確認され、剣崎稲荷塚遺跡(54)で前期



第2図 高崎市および遺跡の位置

※ 国土地理院発行1/200,000地勢図「長野・「宇都宮」を一部改変のうえ作成



1. 本道跡 2. 下里見宮谷戸 3. 中通 4. 堂尾根2号墳 5. 下里見天神前 6. 土大島館 7. 的場・七曲E号墳 8. 七曲りの磐
9. 本郷大塚古墳 10. 道場 11. しどめ塚古墳 12. 小白塚古墳 13. 蔵原敷 14. 御門城 15. 寺内 16. 稲荷森
17. 住古城 18. 当貝戸・東原 19. 井ノ毛塚古墳 20. 鈍子塚古墳 21. 高浜の磐 22. 塞林古墳 23. 若田原
24. 橋ノ木古墳 25. 若田大塚古墳 26. 若田版上 27. 若田屋敷裏 28. 物見塚 29. 若田金龜塚 30. 大島原
31. 剣崎長瀬西古墳 32. 剣崎長瀬西 33. 古城 34. 鷹ノ巣出丸 35. 遠見石 36. 板鼻城 37. 海竜寺 38. 道場塚古墳
39. 小丸田曲輪 40. 稲荷木 41. 屏風岩 42. 荒木塚古墳 43. 平塚古墳 44. 八幡 45. 八幡観音塚古墳
46. 八幡二子塚古墳 47. 四ノ市 48. 八幡六枚 49. 八幡館 50. 八幡中原 51. 七五三引 52. 八幡宮 53. 木輪原敷
54. 剣崎稲荷塚 55. 剣崎小路城 56. 剣崎天神山古墳

第3図 周辺の遺跡

※ 国土院発行1:25,000地形図「下里田・宮田」を一部改変のうえ引用

後半から後期初頭の竪穴建物跡、下里見天神前遺跡(5)で中期の竪穴建物跡、大島原遺跡(30)や海竜寺遺跡(37)で中期末の敷石建物跡が調査されている。後・晩期の遺跡は少ないが、中通遺跡(3)で晩期前半の土器が出土している。

〔弥生時代〕 烏川右岸の下位段丘上の下里見宮谷戸遺跡(2)で中期後半竜見町式期から後期樽式期の竪穴建物跡や再葬墓・環状墓が調査され、烏川左岸の稲荷森遺跡(16)・寺内遺跡(15)・蔵原敷遺跡(13)・道場遺跡(10)でも後期の竪穴建物跡が確認されている。八幡台地では剣崎長瀬西遺跡(32)で多数の竪穴建物跡が検出され、八幡遺跡(44)では多くの竪穴建物跡のほか環状墓・土坑墓が確認され、銅鏝・鉄剣が出土している。八幡遺跡(44)に近い四ノ市遺跡(47)・八幡六枚遺跡(48)でも竪穴建物跡が調査されている。

〔古墳時代〕 剣崎長瀬西遺跡(32)の前期の土器は弥生後期の樽式土器の伝統を受け継ぐ在地系土器であるが、稲荷森遺跡(16)では在地系土台付裏に伴って搬入品の東海東部系複合口縁壺や北陸系複合口縁壺が出土している。前期古墳の本郷大塚古墳(9)は墳長73mの前方後円墳で、魏の連弧文鏡が副葬されている。前期後半から中期

前半の遺跡は少ないが、下里見宮谷戸遺跡(2)で竪穴建物跡が調査され、金床が出土している。中期後半になると遺跡が増加し、八幡台地の剣崎長瀬西遺跡(32)・若田坂上遺跡(26)・八幡中原遺跡(50)・七五三引遺跡(51)・八幡六枚遺跡(48)、烏川左岸の寺内遺跡(15)・蔵屋敷遺跡(13)・道場遺跡(10)等で竪穴建物跡が調査され、多くの遺跡で韓式系土器が出土し、蔵屋敷遺跡(13)・道場遺跡(10)では北辺約88m・南辺約110m・西辺約111mの首長居宅が推定されている。古墳は八幡台地に数多く築かれ、八幡支台には3基の前方後円墳、舟形石棺をもつ平塚古墳(43)、八幡二子塚古墳(46)、畿内型横穴式石室をもつ八幡観音塚古墳(45)がある。若田支台には古式の滑石製模造品が出土した剣崎天神山古墳(56)、三角板革綴短甲や滑石製模造品が出土した剣崎長瀬西古墳(31)があり、積石塚や長方形墳が群集する剣崎長瀬西遺跡(32)は渡来系集団の墓域と考えられ、初期の櫓を装着した馬の埋葬土坑等が調査されている。若田支台には横羽板鍔留短甲や鉄矛を出土した若田大塚古墳(25)、櫛ノ木塚古墳(24)、峯林古墳(22)等がある。

〔奈良・平安時代〕 八幡台地の若田町付近は上野国片岡郡若田郷に比定され、東山道駅路の野後駅家から群馬駅家へ至るルートが想定されている。若田屋敷裏遺跡(27)で竪穴建物跡や掘立柱建物跡、八幡中原遺跡(50)で大型掘立柱建物跡が検出され、円面硯が出土し、七五三引遺跡(51)では礎石建物の存在が推定され、八幡六枚遺跡(48)では「片罡部」の刻書をもつ須恵器甕が出土し、付近に片岡郡家が置かれたと推測されている。烏川左岸は群馬郡長野郷に属し、蔵屋敷遺跡(13)で銅印が出土している。

〔中近世〕 拱間期に立荘された八幡荘は新田氏の祖源義重の相続後は新田荘とともに新田氏の拠地となり、南北朝の内乱後は上野国守護職を世襲した上杉氏の所領となり、戦国後期には武田氏、織田信長、北条氏が領有し、徳川家康の関東入府に伴い井伊直政の領地となった。調査された遺跡は少ないが、上杉領定が築いたとされる八幡館(49)(15世紀末～16世紀初頭)、武田信玄が本陣を布いたと伝える八幡宮、武田方の福田忠政が築城した剣崎小路城(55)等、多くの城館遺跡がある。

III 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

表土除去は、0.20㎡バックホーを用いて行った。表土除去後、人力による遺構検出および遺構掘削を行った。遺構掘削は、適宜ベルト設定および半裁を行い、土層堆積状況を記録した。

遺構測量については、トータルステーションおよび電子平板を用いて平面図を作成し、断面図は遣り方測量で行った。座標は世界測地系を使用した。遺構写真撮影は調査の進捗状況に応じて行い、35mmモノクロフィルム・とデジタルカメラ(1,200万画素相当)を使用した。

遺物接合は、溶剤系接着剤(セメダインC)を用い、エポキシ系樹脂で部分的に補強した。遺物の写真撮影は、センサーサイズAPS-Cのもの(Nikon D7000)を使用した。遺構・遺物トレース、写真加工、版組はそれぞれAdobe IllustratorCS2、Adobe PhotoshopCS6、Adobe InDesignCS2を使用した。

第2節 調査の経過概要

現地での発掘調査は令和6(2024)年3月4日～同年4月4日まで行った。

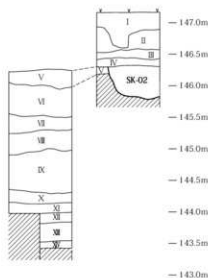
- 3月4日 重機搬入後、表土掘削を開始。器材搬入。
- 3月5日 作業員初日。土のうづくり、竪穴建物跡を切る掘削の埋土除去。
- 3月7日 掘削の埋土除去を継続。調査区東側の土坑・ピットの埋土掘削を開始。表土掘削終了。
- 3月8日 竪穴建物跡の埋土掘削を開始。重複が著しい調査区西部壁面にトレンチを設けて掘削。

- 3月13日 S1-1の床面検出。他の建物跡について、埋土掘削を継続。
- 3月14日 土坑・ピットの大半について、完掘・記録終了。
- 3月15日 S1-1、貯蔵穴・柱穴など付帯施設の完掘・記録を終了。
- 3月25日 建物跡のほとんどについて床面検出と遺物の位置記録・採取を終了、調査区全景写真の空撮を実施。建物跡の掘り方調査段階に移行。
- 3月28日 新旧関係において新しい方の建物跡を対象に、掘り方完掘状況の撮影。調査区遠景の空撮を実施。古い方の建物跡について、掘り方調査を継続。
- 4月2日 ほとんどの建物跡について、掘り方完掘状況撮影を終了。建物跡埋土断面記録を目的とする調査区壁面の写真撮影。
- 4月3日 撤収準備と並行して、残務の消化。新しい部類の建物跡であるS1-13の掘り方完掘状況の撮影。調査区壁面の土層断面の測量。
- 4月4日 撤収作業と並行して、残務の消化。古い部類の建物跡であるS1-9の掘り方完掘状況の撮影。調査区壁面の土層断面の測量。建物跡の重複が著しい調査区西部を対象に、追加の空撮を実施。高崎市教委文化財保護課ならびに株式会社環境保全センター建設部、両職員の立ち会いのもと、発掘作業の終了確認検査。調査区壁面に残置されていた土器破片などを回収し、屋外作業の全工程を終了。

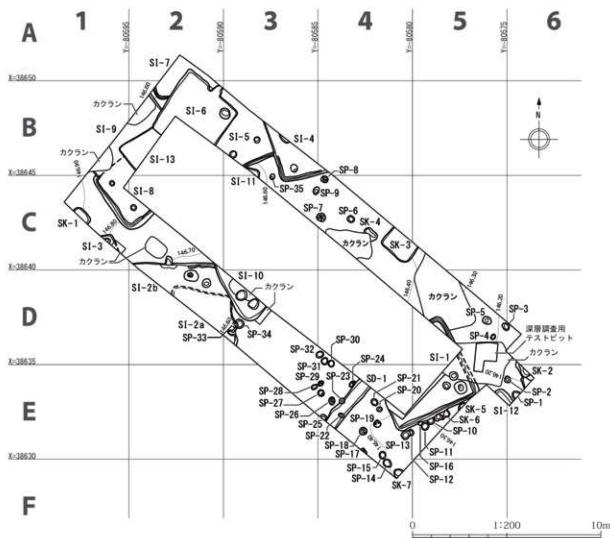
IV 基本層序

基本層序は、D-5グリッドに設けた深層調査用テストピット壁面に確認した。I・II層の造成土は、As-A(浅間A軽石)の粒子を顕著に含有する。As-B(浅間B軽石)およびAs-C(浅間C軽石)の一次堆積層やそれに準じるような単一層は確認できなかった。調査においては、V層の明黄褐色土(ローム漸移層)上位を遺構確認面としている。VI層はAs-YP(浅間板鼻黄色軽石)で、竪穴建物跡の床下土坑は同層の中間まで掘り込まれたものが多い。As-YPより下、暗色帯相当層準に至るまでの堆積状況は明瞭でなく、複数の層準が混在するような様相を呈している。

- I 褐灰色土 砕石主体、しまりやや強、粘性弱。造成土。
- II 褐灰色土 As-Aの粒子(径2~8mm)を多量含む。しまり、粘性とも弱。造成土。
- III 灰黄褐色土 As-Aの粒子(径2~8mm)を中量、焼土粒(径2~6mm)、ローム粒(径2~6mm)を微量含む。しまり、粘性ともやや強。
- IV 暗褐色土 黄褐色の軽石粒(径2~8mm)を少量、ローム粒(径2~6mm)を微量含む。しまり、粘性もあり。
- V 明黄褐色土 しまり、粘性ともやや強。ローム漸移層。
- VI 黄褐色土 しまりあり、粘性やや弱。As-YP。
- VII 明黄褐色土 As-YPの粒子(径10~20mm)、白色の軽石粒(径2~8mm)を少量含む。しまり、粘性もあり。大窪沢2(As-0k2)におおむね相当。
- VIII 明黄褐色土 白色の軽石粒(径2~8mm)を中量含む。しまり、粘性ともやや強。大窪沢1(As-0k1)と浅間-小浅間白糸軽石(As-Sr)におおむね相当。
- IX 黄褐色土 しまりあり、粘性やや強。As-SP(浅間板鼻褐色軽石層)中間におおむね相当。
- X 明黄褐色土 しまり、粘性ともやや強。As-BP下部、浅間-室田軽石(As-SP)におおむね相当。
- XI 浅灰色土 しまり、粘性ともやや強。浅間-室田軽石およびAT(始丹沢火山灰)におおむね相当。
- XII 褐色土 しまり、粘性ともやや強。暗色帯上部に相当。
- XIII 褐色土 しまり、粘性ともやや強。暗色帯下部に相当。
- XIV 褐色土 しまりやや強、粘性あり。北桶スコリアにおおむね相当。



第4図 基本層序



第5図 調査区全体図

V 遺構と遺物

第1節 概要

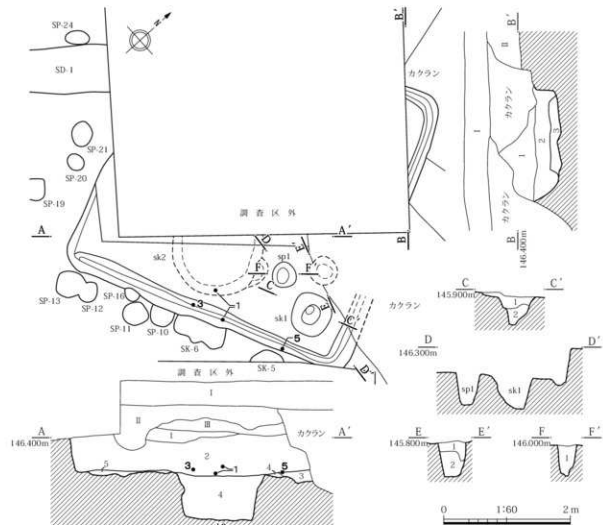
今回の調査で、竪穴建物跡 14 軒、溝 1 条、土坑 7 基、ピット 35 基が検出された。竪穴建物跡の帰属時期は古墳時代～平安時代、5 世紀後半～9 世紀前半と幅がある。土坑・ピットのおよそ半分は As-A の粒子を含んだ、いわゆる A 混土を埋土としており、近世末以降に属するとみられる一方、S K - 4 は埋土中の出土遺物より 10 世紀前半のものと推測される。溝状遺構は S D - 1 の 1 条のみであり、埋土はやはり A 混土、近世末以降の所産と考えられる。なお、土坑・ピットの実事記載は、もっぱら所見一覧表に委ねることとする。

第2節 竪穴建物跡

SI-1 (第6～8図、第1表、PL.2・8)

位置：D-5、E-4・5。 **平面形態**：長方形と推測される。 **重複**：SK-6、SP-10-16と重複し、これより新しい。 **規模**：南東から北西方向に 4.63 m、南西～北東方向に 4.2 m 残存する。 **残存深度**：0.68 m を測る。 **主軸方位**：N-63°-E。 **柱穴・土坑**：柱穴は sp1 とした 1 基が、4 本主柱穴のうちの本 1 本で検出範囲中央付近で確認されている。土坑は、sk1～3 とした 3 基が確認された。sk1 は貯蔵穴、sk2 は床下土坑である。

壁周溝：東壁から南壁にかけてめぐる。**床面の状態**：おおむね平坦である。範囲は明瞭でないが、中央付近に硬化面が広がる。床下土坑の埋土上面にも、微弱な硬化が認められる。**カマド**：検出範囲東部の掘乱によって毀損されたと考えられる。**遺構埋没状態**：暗褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。**掘り方**：ロームブロックを多量に含む明黄褐色土により貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。**遺物出土状態**：床面直上～埋土下層に集中する。平面的には北寄りを中心に散在する。**時期**：古墳時代後期(6世紀中頃～後半)と推定される。**遺物**：土師器環・台付鉢・甕・大型甕・縄文土器が出土した。



SI-1(A-A')

- 1 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を少量、焼土粒(径2～6mm)を微量含む。しまり、粘性ともあり。
- 2 比呂黄褐色土 ロームブロック(径10～100mm)を中量、ローム粒(径2～8mm)を少量、焼土粒(径2～8mm)を微量含む。しまり、粘性ともやや強。
- 3 黄褐色土 ロームブロック(径10～50mm)を多量、ローム粒(径2～8mm)を中量、焼土粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性ともやや強。床土。
- 4 比呂黄褐色土 ロームブロック(径10～80mm)を中量、ローム粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性ともやや強。床下土坑の埋土。
- 5 明黄褐色土 ロームブロック(径10～80mm)を多量、ローム粒(径2～8mm)を中量含む。しまり、粘性とも強。床土。

SI-1(B-B')

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径10～50mm)、ローム粒(径2～8mm)、白色の軽石粒(径2～6mm)を少量含む。しまり、粘性ともあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を多量、ロームブロック(径10～50mm)を中量、焼土粒(径2～8mm)を微量含む。しまり、粘性ともあり。
- 3 黄褐色土 ロームブロック(径10～80mm)を多量、ローム粒(径2～8mm)を中量、焼土粒(径2～8mm)を微量含む。しまり、粘性ともやや強。床土。

SI-1 sk1 (C-C')

- 1 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を中量、ロームブロック(径10～50mm)を少量含む。しまり、粘性ともあり。
- 2 比呂黄褐色土 ローム粒(径2～8mm)を多量、ロームブロック(径10～50mm)を中量含む。しまり、粘性ともやや強。

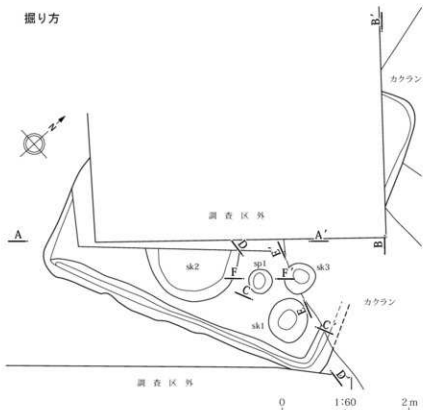
SI-1 sk3 (E-E')

- 1 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を中量、焼土粒(径2～6mm)を微量含む。しまり、粘性ともあり。
- 2 褐色土 ローム粒(径2～8mm)を多量、ロームブロック(径10～30mm)を少量含む。しまり、粘性ともやや強。

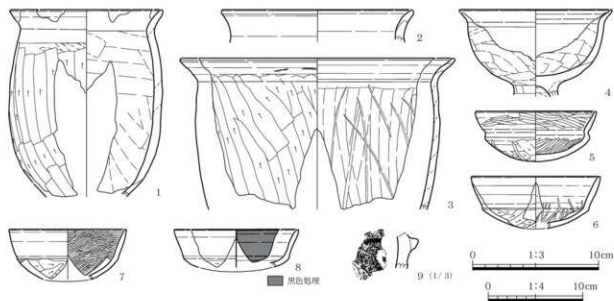
SI-1 sp1 (F-F')

- 1 比呂黄褐色土 ローム粒(径2～8mm)を中量、ロームブロック(径10～30mm)を少量、焼土粒(径2～6mm)を微量含む。しまり、粘性ともあり。

第6図 SI-1(1)



第7図 S1-1(2)



第8図 S1-1 出土遺物

S1-2a (第9～11図、第2表、PL.2・3・8・9)

位置：D-2・3。 **平面形態**：長方形と推測される。 **重複**：S1-2b・10、SP-34と重複し、S1-2bより新しくS1-10より古い。SP-34とは不明。 **規模**：東西方向に3.88m、南北方向に2.55m残存する。 **残存深度**：0.47mを測る。 **主軸方位**：N-79°-E。 **柱穴・土坑**：柱穴は検出されず、土坑は床下土坑が3基礎確認された。 **壁周溝**：確認されていない。 **床面の状態**：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド**：東壁において検

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	土師器 甕	口径 底径 器高	(15.8) — 19.8	①酸化焙 ②(にぶい)橙色/にぶい 褐色 ③白色粒・石英粒・角 閃石 ④11/3	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ココナデ。胴部ナデー ケズリ。内面:口縁部ココナデ。胴部ヘラナデ。	胴部外面中位帯状に煤付 着。下半被熱。
2	土師器 甕	口径 底径 器高	(20.0) — 3.4	①酸化焙 ②(にぶい)褐色/にぶい 黄褐色 ③白色粒・石英粒・ 角閃石 ④口縁部1/8	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ココナデ。内面:口縁 部ココナデ。	口縁部内外面煤付着。
3	土師器 大形甕	口径 底径 器高	(28.6) — 16.0	①酸化焙 ②(褐色/明赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・角 閃石 ④口縁部1/4帯	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ココナデ。胴部ケズリ。 内面:口縁部ココナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部外面煤付着。胴部 外面黒煤あり。
4	土師器 附付燗	口径 底径 器高	(16.0) — 9.2	①酸化焙 ②(赤褐色/黒褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・角 閃石 ④杯部1/2	成形:粘土組織み上げ。ほぞ継ぎ接合。外面:口縁部ココナデ。 体部ケズリナデ。内面:口縁部ココナデ。体部ヘラナデ。	口縁部外面煤付着。
5	土師器 模倣杯	口径 底径 器高	12.6 — 5.3	①酸化焙 ②(明赤褐色/明赤褐 色) ③褐色粒・白色粒 ④4/5	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ココナデ→ミガキ。体 部ケズリナデ。内面:口縁部ココナデ→ミガキ。体部ナ デ→細いミガキ。	体部外面に黒煤あり。
7	土師器 模倣杯	口径 底径 器高	(12.2) — 5.3	①酸化焙 ②(明赤褐色/明赤 褐色) ③褐色粒・白色粒・石 英粒 ④口縁部1/2	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ココナデ。体部ナ デーケズリ。内面:口縁部ココナデ→細いミガキ。体部 ナデ→細いミガキ。	
8	土師器 模倣杯	口径 底径 器高	(13.0) — 4.0	①酸化焙 ②(明赤褐色/黒色) ③褐色粒・白色粒 ④口縁部 1/7	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ココナデ。体部ケズリ。 内面:口縁部ココナデ。体部ナデ。	内面黒色処理。
9	縄文土 器深鉢	口径 底径 器高	— — —	①酸化焙 ②(にぶい)黄褐色 /灰黄褐色 ③褐色粒・白色 粒 ④小破片。	成形:粘土組織み上げ。外面:沈殿文→ミガキ。内面: ミガキ。	

第1表 S1-1 出土遺物観察表

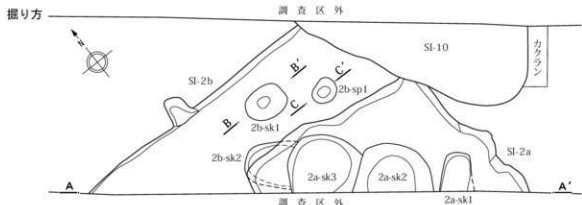
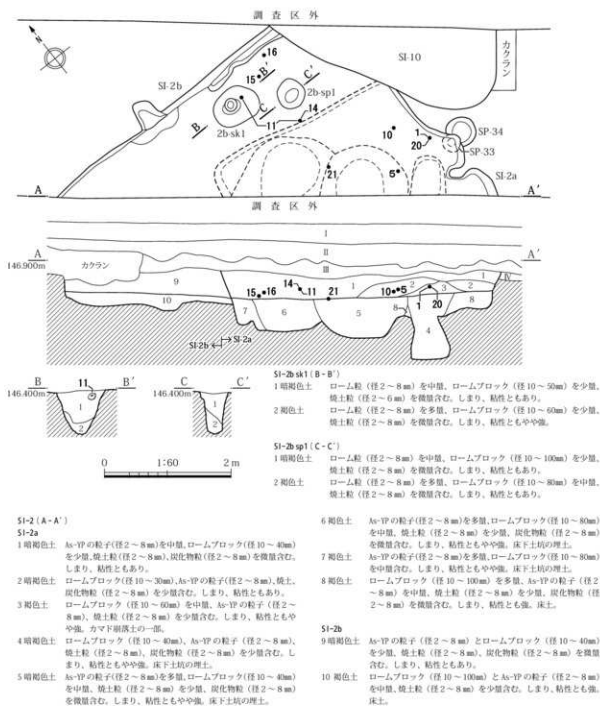
出された。SP-33・34に切られている。遺構埋没状態:暗褐色を主体とした埋土による自然埋没と推測される。掘り方:褐色土、または上面に微弱な硬化を伴う床下土坑の埋土により床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態:床面直上~埋土下層に集中する。平面的には東寄りを中心に散在する。時期:奈良時代(8世紀後半)と推定される。遺物:土師器環・高環・鉢・甕・壺・甔、須恵器環蓋・環身・高台環・甕、砥石、磨石、剥片が出土している。

S1-2b (第9~11図、第2表、PL.2・3・8・9)

位置:C-2、D-2・3。平面形態:長方形と推測される。重複:S1-2a・10と重複し、これらより古い。規模:東西方向に5.10m、南北方向に1.65m残存する。残存深度:0.45mを測る。主軸方位:N-0°。柱穴・土坑:柱穴はsp1とした1基、土坑はsk1・2とした2基が確認されている。壁周溝:西側の北壁確認されている。床面の状態:おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。カマド:北壁にて確認されている。遺構埋没状態:ロームブロック少量などを含む暗褐色土による自然埋没と推測される。掘り方:ロームブロックやAs-YPの粒子などを含む褐色土により貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態:床面直上~埋土下層に集中する。平面的には東寄りを中心に散在する。時期:古墳時代後期(6世紀後半)と推定される。遺物:土師器環・高環・鉢・甕・壺・甔、須恵器環蓋・環身・高台環・甕、砥石、磨石、剥片が出土している。

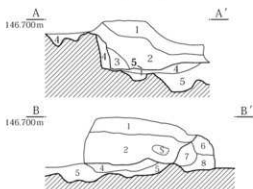
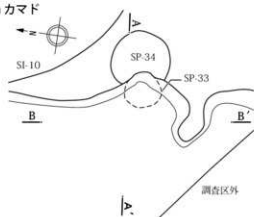
S1-3 (第12図、PL.4)

位置:C-1。平面形態:不明。重複:他の遺構とは重複せず、単独で確認された。規模:南東~北西方向に0.58m、北東北~南西方向に0.65m残存する。検出範囲における北壁の長さは約2mと推測される。残存深度:0.35mを測る。主軸方位:不明。柱穴:検出範囲において、確認されていない。壁周溝:検出範囲において、確認されていない。床面の状態:おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、



第9図 SI-2a・2b(1)

SI-2aカマド



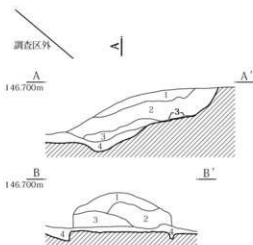
SI-2aカマド掘り方



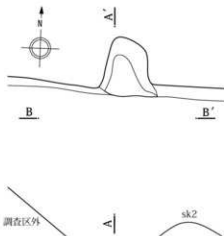
SI-2aカマド

- 1 赤黄褐色土 ロームブロック(径10～60mm)を多量、焼土を中量、ローム粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性ともあり。
- 2 赤褐色土 焼土を多量、ロームブロック(径10～50mm)を中量、ローム粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性ともあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を中量、焼土粒(径2～8mm)を微量含む。しまり、粘性ともあり。カマド崩落前に入り込んだ土。
- 4 赤褐色土 焼土を多量、ロームブロック(径2～6mm)を少量含む。しまりやや強、粘性あり。
- 5 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を少量、ロームブロック(径10～30mm)を少量含む。しまり、粘性とも強。
- 6 黄褐色土 ロームブロック(径10～100mm)主体、焼土粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性とも強。カマド底部の崩落した土。
- 7 褐色土 ロームブロック(径10～80mm)を多量、焼土粒(径2～8mm)を少量、ローム粒(径2～8mm)を微量含む。しまり、粘性とも強。
- 8 暗褐色土 ロームブロック(径10～60mm)を中量、焼土粒(径2～8mm)、ローム粒(径2～6mm)を少量含む。しまり、粘性ともやや強。カマド崩落前に入り込んだ土。

SI-2bカマド



SI-2bカマド掘り方

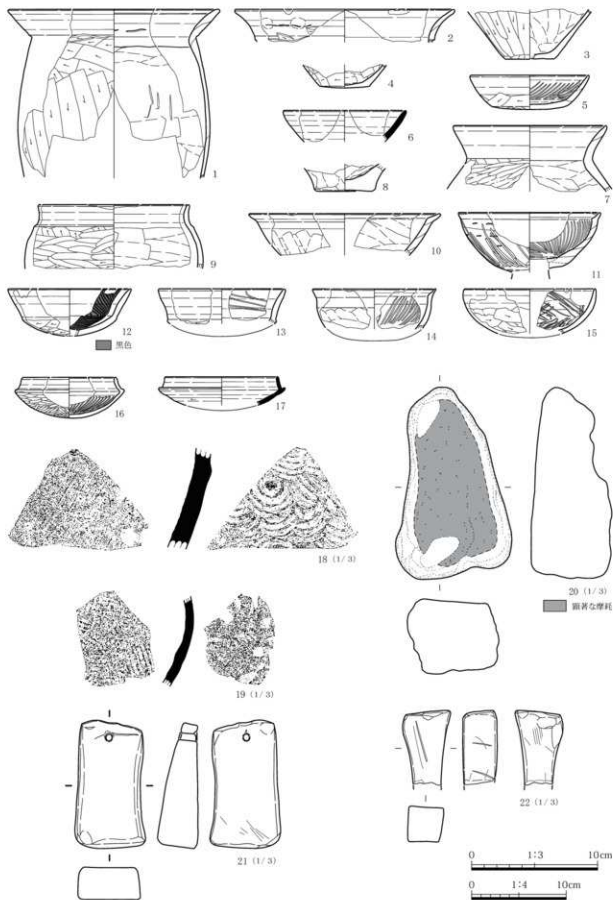


SI-2bカマド

- 1 明黄褐色土 ロームブロック(径10～60mm)を多量、焼土を中量、ローム粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性あり。カマドの崩落土。
- 2 明赤褐色土 焼土を多量、ロームブロック(径10～30mm)、ローム粒(径2～8mm)を中量含む。しまり、粘性やや強。
- 3 褐色土 ロームブロック(径10～60mm)を多量、ローム粒(径2～8mm)を中量、焼土粒(径2～6mm)を少量含む。しまり、粘性あり。
- 4 暗褐色土 ローム粒(径2～8mm)を中量、焼土粒(径2～8mm)を少量含む。しまり、粘性あり。カマド掘り方。

0 1:30 1m

第10図 SI-2a・2b(2)

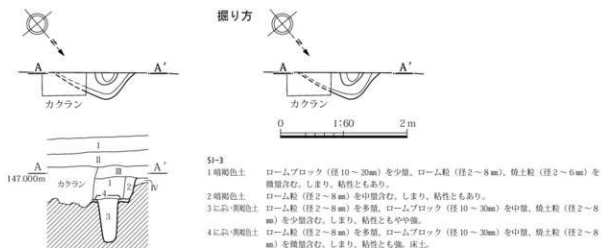


第11图 SI-2a·2b出土遗物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 長胴埴 器高	口径 (22.0) — 底径 (17.8)	①酸化焼 ②(にぶい赤褐色/赤褐色) ③褐色粒・白色粒・片岩粒・輝石 ④胎部1/4	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	
2	土師器 長胴埴 器高	口径 (23.0) — 底径 (3.5)	①酸化焼 ②(明赤褐色/明赤褐色) ③褐色色粒・白色粒 ④口縁部1/6	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。	
3	土師器 甕	口径 (5.0) 底径 (5.2)	①酸化焼 ②(にぶい褐色/にぶい褐色) ③白色粒・石英粒 ④底部1/5	成形: 粘土組織み上げ。外面: 胴部~底部ケズリ。内面: 胴部~底部ナデ。	
4	土師器 甕	口径 (5.2) 底径 (2.5)	①酸化焼 ②(黒褐色/黒褐色) ③褐色色粒・白色粒・輝石 ④底部1/2	成形: 粘土組織み上げ。外面: 胴部~底部ケズリ。内面: 胴部~底部ヘラナデ。	
5	土師器 暗文付 環	口径 (12.4) 底径 (7.8) 器高 (3.6)	①酸化焼 ②(にぶい褐色/にぶい褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒・雲母粒・角閃石 ④完形	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部下半~い底部ケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部斜行暗文。底部ナデ。	底部内面の螺旋状暗文は不明瞭。
6	須恵器 環	口径 (12.8) 底径 (7.3)	①還元焼 ②(灰白色/灰白色) ③白色粒・黒色粒 ④口縁部1/8	成形: 粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面: 口縁部~体部回転ナデ。内面: 口縁部~体部回転ナデ。	
7	土師器 甕	口径 (16.0) 底径 (7.0)	①酸化焼 ②(にぶい黄褐色/にぶい黄褐色) ③褐色色粒・白色粒 ④口縁部1/3	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→ミガキ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	
8	土師器 甕	口径 (6.0) 底径 (2.9)	①酸化焼 ②(赤褐色/褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒・輝石 ④底部1/2割	成形: 粘土組織み上げ。外面: 胴部下端ナデ。底部ケズリ。内面: 胴部下端~底部ナデ。	
9	土師器 鉢	口径 (15.8) 底径 (6.7)	①酸化焼 ②(にぶい褐色/黒褐色) ③白色粒・石英粒・角閃石 ④口縁部1/4	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ→器ミガキ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	
10	土師器 鉢	口径 (20.0) 底径 (4.4)	①酸化焼 ②(にぶい赤褐色/赤褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒 ④胎部1/9	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデヘラナデ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデヘラナデ。	
11	土師器 高坏	口径 (14.8) 底径 (6.3)	①酸化焼 ②(赤褐色/赤褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒 ④坏部1/2	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。坏部ナデ→斜行暗文。内面: 口縁部ヨコナデ。坏部ナデ→斜行暗文。	
12	土師器 焼畑埴 器高	口径 (12.8) 底径 (5.0)	①酸化焼 ②(明赤褐色/黒褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒 ④1/8	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面: 口縁部~体部ナデ→斜行暗文。	内面黒色処理。
13	土師器 焼畑埴 器高	口径 (13.2) 底径 (3.7)	①酸化焼 ②(にぶい赤褐色/褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒 ④胎部1/7	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ→斜行暗文。体部ナデ。	
14	土師器 内斜口 鉢環	口径 (12.8) 底径 (4.2)	①酸化焼 ②(明赤褐色/明赤褐色) ③褐色色粒・白色粒・輝石 ④体部1/6	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ→斜行暗文。	
15	土師器 内斜口 鉢環	口径 (13.8) 底径 (4.7)	①酸化焼 ②(明赤褐色/明赤褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英・角閃石 ④体部1/6	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデケズリ。内面: 口縁部~体部ヨコナデ→暗文。	内面暗文は斜行暗文を基本とするが、底部には違う文様の暗文が施されているようである。
16	土師器 焼畑埴 器高	口径 (9.8) 底径 (4.3)	①酸化焼 ②(黒褐色/暗赤褐色) ③褐色色粒・白色粒・石英粒・輝石 ④2/3	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ→放射状暗文。	
17	須恵器 坏身	口径 (11.8) 底径 (3.0)	①還元焼 ②(灰色/灰色) ③白色粒・黒色粒 ④口縁部1/5	成形: 粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面: 口縁部回転ナデ。体部回転ナデ→下半回転ヘラケズリ。内面: 口縁部~体部回転ナデ。	
18	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	①還元焼 ②(灰色/灰色) ③褐色色粒・黒色粒・白色粒 ④胴部破片	成形: 粘土組織み上げ→叩き。外面: 胴部叩き(平叩き目)。内面: 当て道具痕(青海波文)。	外面に筒状による自然輪が浮かる。
19	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	①還元不良 ②(褐色/にぶい黄褐色) ③淡黄褐色・白色粒 ④胴部破片	成形: 粘土組織み上げ→叩き。外面: 胴部叩き(平叩き目)。内面: 当て道具痕(円形)→ナデ。	
番号	器種	長さ・幅・厚さ・重さ/材質/残存度/成・整形技法の特徴			備 考
20	砥石	長さ15.2、最大幅9.2、最大厚6.4、重さ1236.72g/川原石/完形/自然石の一面を掘面に使用。			
21	柱状 砥石	長さ10.2、最大幅5.6、最大厚3.2、重さ232.65g/滝沢岩/1/2/各面とも研磨。			平折後穿孔を施して砥風に再利用。
22	柱状 砥石	長さ[5.9]、最大幅3.8、最大厚2.7、重さ87.88g/滝沢岩/1/2/各面とも研磨。			

第2表 SI-2a・2b出土土遺物観察表

付随する床下土坑ないしピットのレベルなども判断材料として床を認識している。カマド：検出範囲において確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。遺構埋没状態：暗褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。掘り方：ローム粒やロームブロックを含むにぶい黄褐色土により貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態：遺物は出土しなかった。時期：不明。遺物：確認されていない。



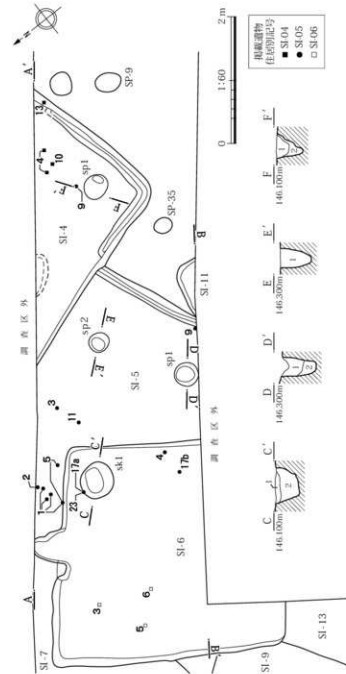
第12図 S1-3

S1-4 (第13～15図、第3表、PL. 4・9)

位置：B-3・4、C-3。平面形態：長方形と推測される。重複：S1-5と重複し、これより古い。規模：東西方向に2.58m、南北方向に3.55m残存する。検出範囲における北壁の長さは約2mと推測される。残存深度：0.61mを測る。主軸方位：不明。柱穴・土坑：柱穴はsp1とした1基が、土坑は床下土坑が1基確認される。検出範囲中央付近で確認されている。壁周溝：南壁から西壁の一部にかけてめぐる。床面の状態：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども判断材料として床を認識している。カマド：確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。遺構埋没状態：ローム粒などを含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。掘り方：ローム粒やロームブロック、焼土粒を含む褐色土により貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態：床面直上～埋土下層に集中する。平面的には南東寄りを中心に散在する。時期：奈良時代後半～平安時代前期（8世紀後半～9世紀前半）と推定される。遺物：土師器環・甕、須恵器環・高台环・壺・甕、擦石、鉄滓が出土している。

S1-5 (第13・14・16・17図、第4・5表、PL. 4・9・10)

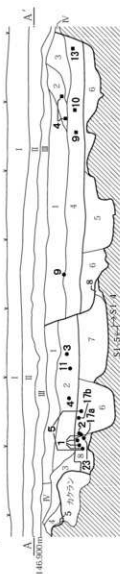
位置：B-2・3。平面形態：長方形と推測される。重複：S1-4・6・11と重複し、S1-4・6より古く、S1-11とは不明。規模：東西方向に2.88m、南北方向に4.35m残存する。検出範囲における北壁の長さは約2mと推測される。残存深度：0.55mを測る。主軸方位：不明。柱穴・土坑：柱穴はsp1・2とした2基が検出範囲南東で、土坑は床下土坑7基が確認されている。壁周溝：南壁にて確認されている。床面の状態：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。カマド：確認されなかった。調査区外に潜在するか、周囲の建物跡



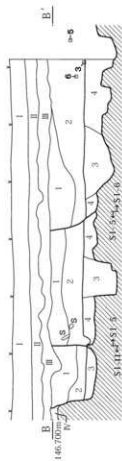
- SI-4 (A-K')
- 1 埋藏土
 - 2 水堀
 - 3 溝
 - 4 礎石
 - 5 礎石
 - 6 礎石
 - 7 埋藏土
 - 8 埋藏土

- SI-5 (A-K')
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
 - 3 埋藏土
 - 4 埋藏土
 - 5 埋藏土
 - 6 埋藏土
 - 7 埋藏土
 - 8 埋藏土

第13図 SI-4～6・11(1)



- SI-4 sp1 (B-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-5 sp1 (B-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp2 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp2 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp3 (A-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-5 sp3 (A-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp4 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp4 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp5 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp5 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp6 (A-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp6 (A-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp7 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp7 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp8 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp8 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp9 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp9 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp10 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp10 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp11 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp11 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp12 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp12 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土
- SI-4 sp13 (E-F)
- 1 埋藏土
- SI-5 sp13 (E-F)
- 1 埋藏土
 - 2 埋藏土



SI-5 (B-B')

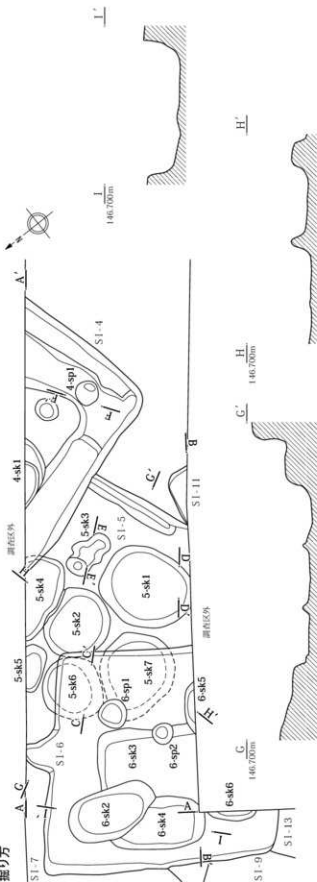
- 1 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm)、炭化物 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
2 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を中量、ロームブロック (径10~30mm) を少量、焼土 (径2~8mm)、炭化物 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
3 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm) を中量、焼土 (径2~8mm) を少量埋戻す。しまり、粘付ともあり。底工上の埋戻土。
4 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm) を中量、炭化物 (径2~8mm) を少量埋戻す。しまり、粘付ともあり。

SI-6 (B-B')

- 1 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm)、焼土 (径2~8mm)、炭化物 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
2 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を中量、ロームブロック (径10~30mm) を少量、焼土 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
3 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm) を中量、焼土 (径2~8mm)、炭化物 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
4 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm) を中量、焼土 (径2~8mm)、炭化物 (径2~6mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。底上。

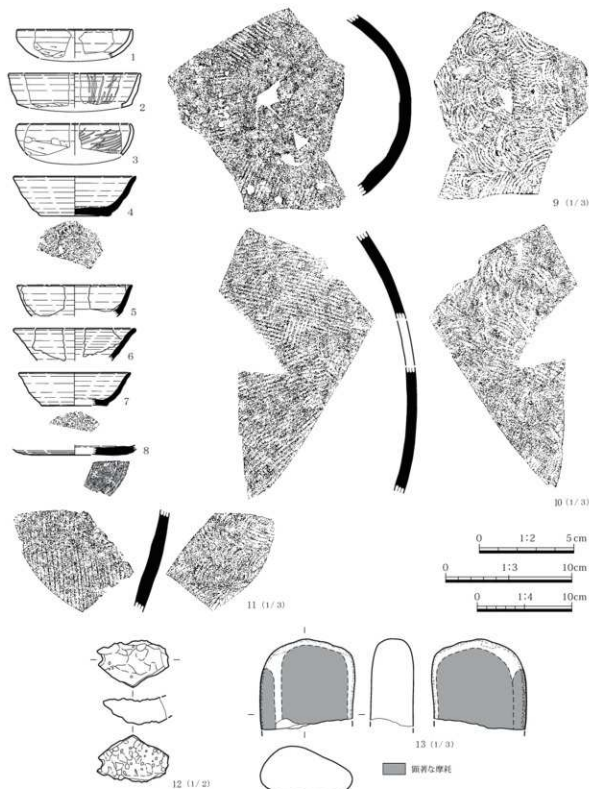
- SI-11 (B-B')
- 1 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を中量、ロームブロック (径10~30mm) を少量、焼土 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
2 埋戻土上
A-17の砂子 (径2~8mm) を中量、ロームブロック (径10~30mm)、焼土 (径2~8mm) を埋戻す。しまり、粘付ともあり。
3 埋戻土上
ロームブロック (径10~60mm) を多量、ロームブロック (径2~8mm) を中量埋す。しまり、粘付ともあり。底上。

掘り方



第14図 SI-4~6・11(2)

に棄損されているものと推測される。遺構埋没状態：暗褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。掘り方：にぶい黄褐色土を主体とする貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態：床面直上～埋土下層に集中する。平面的には北寄りを中心に散在する。時期：古墳時代後期（7世紀前半）と推定される。遺物：土師器環・台付甕・甕、須恵器環・甕、羽口、砥石が出土した。



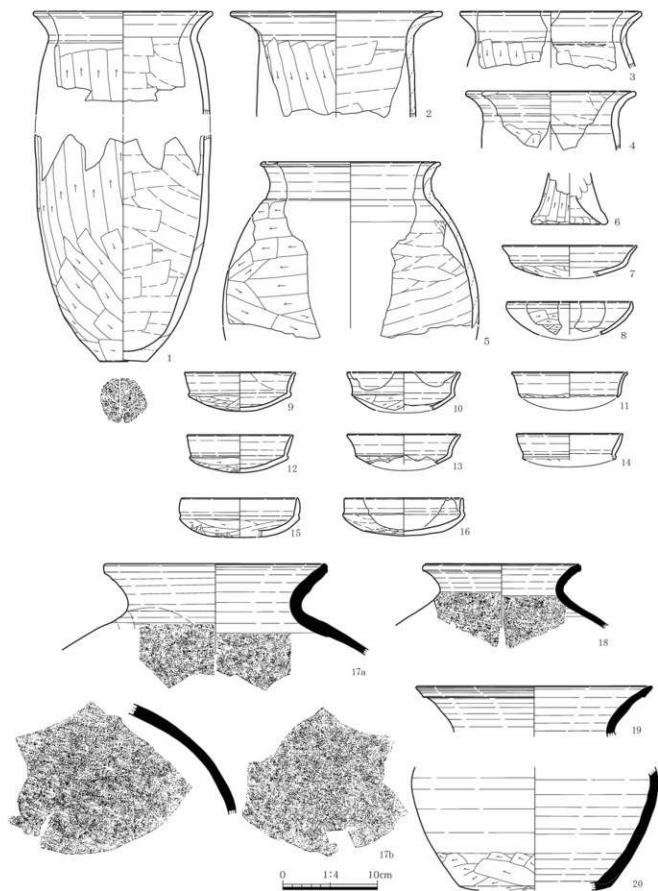
第15図 S1-4 出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (内/外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 環	口径 底径 器高 — — [3.0]	①酸化焙 ② (褐色 / 褐色) ③白色粒・石英粒 ④口縁部 1/10	成形：粘土組織み上げ。外面：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ→下半ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。	
2	土師器 模倣環	口径 底径 器高 — — [3.6]	①酸化焙 ② (浅黄色 / にぶい 黄褐色) ③白色粒 ④口縁部 1/8	成形：粘土組織み上げ。外面：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ→ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ→放射状暗文。	口縁部内外面保付着。
3	土師器 内湾口 縁環	口径 底径 器高 — — [3.3]	①酸化焙 ② (暗褐色 / 暗褐色) ③白色粒・石英粒・輝石 ④口縁部 1/6	成形：粘土組織み上げ。外面：口縁部ヨコナデ。体部ナ デ→ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ→斜行状暗文。	口縁部内外面保付着。
4	須恵器 環	口径 底径 器高 — — 4.2	①還元焙 ② (灰白色 / 灰黄色) ③褐色粒・白色粒・小石 ④ 1/3	成形：粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面：口腕部～体 部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。内面：口縁部～底部 回転ナデ。	
5	須恵器 環	口径 底径 器高 — — [3.3]	①還元焙 ② (褐灰色 / 灰色) ③褐色粒・白色粒 ④口縁部 1/6	成形：粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面：口縁部～体 部回転ナデ。内面：口縁部～体部回転ナデ。	
6	須恵器 環	口径 底径 器高 — — [3.4]	①還元焙 ② (灰色 / 灰色) ③黒色粒・白色粒 ④口縁部 1/10	成形：粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面：口縁部～体 部回転ナデ。内面：口縁部～体部回転ナデ。	
7	須恵器 環	口径 底径 器高 — — 3.5	①還元焙 ② (灰色 / 灰白色) ③白色粒・黒色粒 ④底部 1/4	成形：粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面：口腕部～体 部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。内面：口縁部～底部 回転ナデ。	
8	須恵器 環	口径 底径 器高 — — [1.1]	①感化減塩 ② (灰色 / 灰色) ③褐色粒・白色粒 ④底部 1/8	成形：粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面：底部回転ヘ ラケズリ。内面：底部回転ナデ→不定方向のナデ。	外面に降灰による淡緑 色の自然釉が掛かる。
9	須恵器 模倣 環	口径 底径 器高 — — —	①還元焙 ② (灰色 / 灰色) ③白色粒・黒色粒 ④胴部破 片	成形：粘土組織み上げ→叩き。外面：叩き (平行叩き目) →ナデ。内面：当て道具痕 (青海波文)	外面→土器片断面に保 付着。
10	須恵器 甕	口径 底径 器高 — — —	①還元焙 ② (灰色 / 灰色) ③白色粒 ④胴部破片	成形：粘土組織み上げ→叩き。外面：叩き (平行叩き目)。 内面：当て道具痕 (青海波文) →ナデ。	
11	須恵器 甕	口径 底径 器高 — — —	①還元焙 ② (にぶい黄褐色 / 灰白色) ③褐色粒・白色粒 ④胴部破片	成形：粘土組織み上げ→叩き。外面：叩き (平行叩き目)。 内面：当て道具痕 (青海波文)。	
番号	器種	長さ・幅・厚さ・重さ / 材質 / 残存度 / 成・整形技法の特徴			備考
12	鉄洋	長さ [2.5]・幅 [3.8]・厚さ [1.3]・重さ 18.78g	破片		
13	砥石	長さ [7.2]・幅 7.5・厚さ 3.6・重さ 322.13g	/ 川原石 / 1/2 / 自然石の平坦面を擦面に使用。		

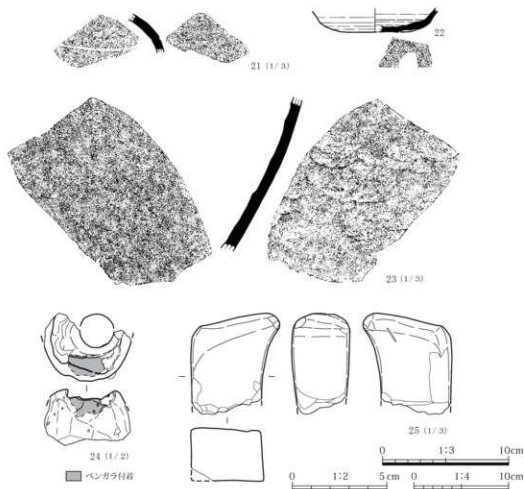
第3表 SI-4 出土遺物観察表

SI-6 (第13・14・18・19図、第6表、PL.4・5・10・11)

位置：A-2、B-2～3。 **平面形態**：長方形と推測される。 **重複**：SI-5・7・9・13と重複し、SI-5・9・13より新しく、SI-7とは不明。 **規模**：東西方向に2.88m、南北方向に4.35m残存する。 **残存深度**：0.60mを測る。 **主軸方位**：N-38°-E。 **柱穴・土坑**：柱穴は確認されなかった。土坑は貯蔵穴のsk1と床下土坑が5基確認されている。 **壁周溝**：確認されていない。 **床面の状態**：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド**：北東壁において確認されている。 **遺構埋没状態**：シルトを含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と推測



第 16 图 S1-5 出土遺物 (1)



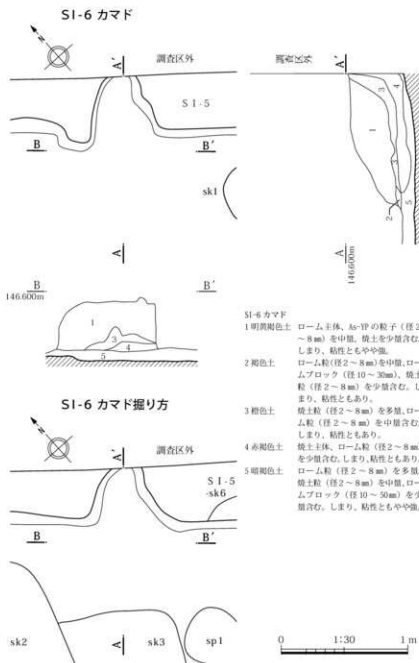
第17図 S1-5 出土遺物(2)

器号	器種	法量 (cm)	①焼成劣色調 (内/外) ③胎土4残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 長胴壺	口径 (18.6) 底径 5.0 器高 (37.6)	①酸化焼 ② (橙色/橙色) ③片岩・褐色粒・白色粒・小石 ④口縁部 1/6、胴部 1/3	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナ デーケズリ。底部未調整(木葉痕)。内面: 口縁部ヨコナデ。 胴部へラナデ。	
2	土師器 長胴壺	口径 (22.0) 底径 器高 [11.1]	①酸化焼 ② (明赤褐色/にぶ い赤褐色) ③片岩・褐色粒・ 白色粒 ④口縁部 1/4	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナ デーケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。	
3	土師器 長胴壺	口径 (29.0) 底径 器高 [6.0]	①酸化焼 ② (にぶい赤褐色/ にぶい赤褐色) ③褐色粒・白 色粒・片岩粒 ④口縁部 1/6	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナ デーケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。	
4	土師器 長胴壺	口径 (17.6) 底径 器高 [6.2]	①酸化焼 ② (にぶい橙色/橙 色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・ 角閃石・輝石 ④口縁部 1/6	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	
5	土師器 胴直壺	口径 (18.6) 底径 器高 [18.8]	①酸化焼 ② (にぶい黄褐色/ 褐色) ③褐色粒・白色粒・石 英・片岩・小石 ④上半 1/6	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	
6	土師器 台付壺	口径 台端部 器高 [5.4]	①酸化焼 ② (暗赤褐色/暗赤 褐色) ③褐色粒・白色粒・石 英粒 ④台端部 1/3	成形: 粘土細積み上げ。外面: 台部ナデーケズリ。内面: ナデ。	
7	土師器 皿	口径 (14.0) 底径 器高 [3.3]	①酸化焼 ② (明褐色/明褐色) ③白色粒・石英粒 ④口縁部 1/3	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナ デーケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	
8	土師器 坪	口径 (13.0) 底径 器高 [3.5]	①酸化焼 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒 ④口縁部 1/8	成形: 粘土細積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナ デーケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	

第4表 S1-5 出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量 (cm)	①焼成2色調 (内/外) ②胎土の残存	成・整形技法の特徴	備考
9	土師器 杯	口径 底径 器高 11.4 — 4.1	①酸化塩 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒・石英粒 ④ 2/3	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケズリ, 内面:口縁部~体部上半ヨコナデ,体部下半→ナデ。	
10	土師器 杯	口径 底径 器高 (11.8) — [4.0]	①酸化塩 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒 ④ 1/3	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケズリ, 内面:口縁部~体部上半ヨコナデ。	
11	土師器 杯	口径 底径 器高 (12.0) — [2.7]	①酸化塩 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒・黒色粒・石 英粒 ④口縁部 1/4強	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケズリ, 内面:口縁部ヨコナデ。	
12	土師器 杯	口径 底径 器高 (11.0) — 4.0	①酸化塩 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒・石英粒 ④ 1/2	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケズリ, 内面:口縁部ヨコナデ,体部ナデ。	
13	土師器 杯	口径 底径 器高 (11.8) — 3.8	①酸化塩 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒 ④口縁部 1/4	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケズリ, 内面:口縁部ヨコナデ,体部ナデ。	
14	土師器 樽状杯	口径 底径 器高 (11.0) — [2.8]	①酸化塩 ② (橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒 ④口縁部 1/4強	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケズリ, 内面:口縁部ヨコナデ。	
15	土師器 樽状杯	口径 底径 器高 (12.2) — [4.1]	①酸化塩 ② (にぶい赤褐色 / にぶい赤褐色) ③褐色粒・白 色粒 ④口縁部 1/4	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ケ ズリ→雑なミガキ,内面:口縁部ヨコナデ,体部ナデ。	内外面煤付着。
16	土師器 樽状杯	口径 底径 器高 (12.4) — [4.0]	①酸化塩 ② (灰褐色/黒褐色) ③褐色粒・白色粒 ④体部 1/4	成形:粘土締積み上げ,外面:口縁部ヨコナデ,体部ナ デ→下半ケズリ,内面:ナデ。	体部外面煤付着,内面 斑点状剥落顕著。
17ab	須恵器 甕	口径 底径 器高 23.0 — [9.6]	①還元塩 ② (灰色/灰色) ③褐色粒・黒色粒・白色粒 ④ 口頸部 (17a), 胴部破片 (17b)	成形:粘土締積み上げ→叩き,外面:口縁部回転ナデ, 胴部叩き(平行叩き目)→上端ヨコナデ(左回り),内面: 口縁部回転ナデ,胴部当て道具痕(円形)→ナデ。	
18	須恵器 甕	口径 底径 器高 (16.0) — [6.8]	①還元塩 ② (灰白色/灰白 色) ③白色粒・黒色粒 ④口 縁部 1/4	成形:粘土締積み上げ→叩き,外面:口縁部回転ナデ, 胴部叩き(平行叩き目),内面:口縁部回転ナデ,胴部丁 卑なナデ。	
19	須恵器 甕	口径 底径 器高 (24.6) — [5.4]	①還元塩 ② (灰色/黄灰色) ③褐色粒・白色粒 ④口縁部 1/6	成形:粘土締積み上げ→叩き,外面:口縁部回転ナデ,内面: 口縁部回転ナデ。	
20	須恵器 甕	口径 底径 器高 — (16.0) [13.0]	①還元塩 ② (灰色/黄灰色) ③黒色粒・白色粒 ④胴部下 半 1/4	成形:粘土締積み上げ→ロクロ整形,外面:胴部回転ナ デ→下端手持りヘラケズリ,内面:回転ナデ。	
21	須恵器 甕	口径 底径 器高 — — —	①還元塩 ② (灰色/灰色) ③褐色粒・白色粒 ④胴部破片	成形:粘土締積み上げ→ロクロ整形,外面:胴部回転ナ デ→回鏡,内面:回転ナデ。	外面に濃緑色の自然釉 が掛かる。
22	須恵器 杯	口径 底径 器高 — — [2.5]	①還元塩 ② (灰色/灰色) ③白色粒 ④底部 1/8	成形:粘土締積み上げ→ロクロ整形,外面:口縁部~体 部回転ナデ,底部回転ヘラケズリ,内面:体部~底部回 転ナデ。	底部外面に緑褐色(焼 痕)あり。
23	須恵器 甕	口径 底径 器高 — — —	①還元塩 ② (黄灰色/黄灰色) ③褐色粒・白色粒 ④胴部破 片	成形:粘土締積み上げ→叩き,外面:胴部叩き→丁卑な ナデ,内面:当て道具痕(円形)を残す。	
24	羽口	長さ 幅 内径 [3.0] [4.6] 1.8	①酸化塩 ② (黒褐色/にぶい 黄褐色) ③白色粒 ④端部破 片	成形:粘土締積み上げ,外面:ナデ,内面:ナデ。	端部に赤色付着物あり。
番号	器種	長さ・幅・厚さ・重さ/材質/残存度/成・整形技法の特徴			備考
25	柱状砥石	長さ [8.0]・最大幅 6.0・最大厚 4.6・重さ 317.46g/凝灰岩/1/2/四角柱に整形後各面研磨。			

第5表 S1-5 出土遺物観察表(2)

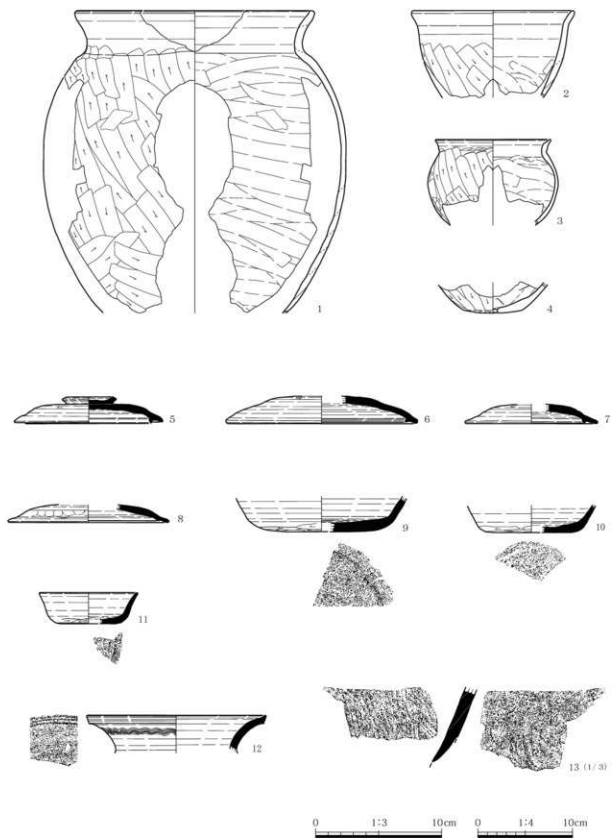


第18図 SI-6

される。掘り方：As-YPの粒子やロームブロックを含む褐色土により貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態：床面直上または埋土下層に集中する。平面的には北東寄りを中心に散在する。時期：飛鳥時代後半（7世紀末）と推定される。遺物：土師器環・高环・鉢・台付甕・小型甕・甕、須恵器蓋・环・壺・甕が出土している。

SI-7（第20図、第7表、PL.5・11）

位置：A・B-2。平面形態：長方形と推測される。重複：SI-6と重複し、新旧関係は不明。規模：東西方向に0.88m、南北方向に0.72m残存する。残存深度：0.38mを測る。主軸方位：不明。柱穴・土坑：柱穴は確認されなかった。土坑は床下土坑が1基確認されている。壁周溝：南壁から北壁にかけて



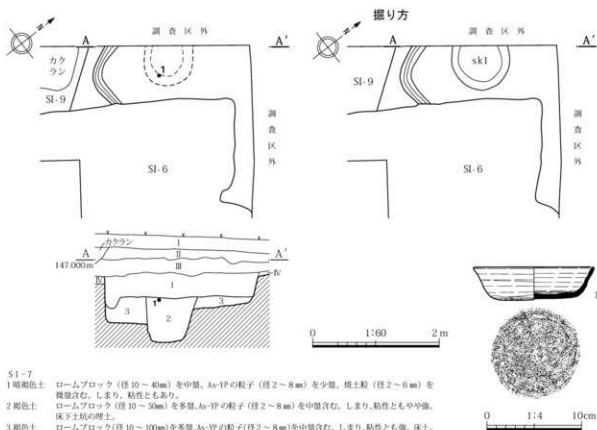
第 19 図 S1-6 出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 胴直器	口径 (24.8) 底径 — 器高 [31.9]	①酸化焰 ② (にぶい・褐色/にぶい・褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・片岩粒・輝石 ④ 1/7	成形：粘土組織み上げ。外面：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	胴部外面に黒肌あり。
2	土師器 鉢	口径 (17.0) 底径 — 器高 [9.2]	①酸化焰 ② (暗赤褐色/にぶい・褐色) ③白色粒・石英粒・片岩粒・角閃石 ④口縁部 1/4	成形：粘土組織み上げ。外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→ケズリ。内面：口縁部→上半ヨコナデ→下半ナデ。	外面被熱。内外面覆付着。
3	土師器 小形携 直器	口径 (12.0) 底径 — 器高 [9.1]	①酸化焰 ② (黒褐色/赤褐色) ③褐色粒・白色粒・片岩粒・輝石 ④口縁部 1/2弱	成形：粘土組織み上げ。外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	内外面覆付着。
4	土師器 有孔鉢	口径 — 底径 (6.0) 器高 [3.4]	①酸化焰 ② (褐色/褐色) ③褐色粒・白色粒・片岩粒 ④底部 1/3	成形：粘土組織み上げ。外面：体部→底部ケズリ。内面：体部→底部ヘラナデ。	底部中央に穿孔(焼成前)あり。
5	須恵器 蓋	口径 15.6 蓋部 5.7 器高 2.8	①還元焰 ② (灰色/灰色) ③黒色粒・白色粒・褐色粒 ④ 1/2強	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。蓋み部貼付け。外面：蓋み部回転ナデ。天井部回転ナデ。内面：天井部→口縁部回転ナデ。	
6	須恵器 蓋	口径 (19.8) 底径 — 器高 [2.9]	①酸化焰 ② (灰色/灰色) ③褐色粒・白色粒・黒色粒 ④口縁部 1/10	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。内面：天井部→口縁部回転ナデ。	
7	須恵器 蓋	口径 (13.6) 底径 — 器高 [2.0]	①還元焰 ② (灰色/灰白色) ③黒色粒 ④口縁部 1/4	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。内面：天井部→口縁部回転ナデ。	
8	須恵器 蓋	口径 (16.8) 底径 — 器高 [1.9]	①還元焰 ② (褐灰色/灰色) ③黒色粒 ④口縁部 1/6	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：天井部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。内面：天井部→口縁部回転ナデ。	
9	須恵器 環	口径 — 底径 (13.4) 器高 [3.8]	①還元焰 ② (灰白色/黄灰色) ③褐色粒・黒色粒・白色粒 ④底部 1/6	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：体部回転ナデ。底部手持ちヘラケズリ。内面：体部→底部回転ナデ。	
10	須恵器 環	口径 — 底径 (9.8) 器高 [2.9]	①還元焰 ② (灰白色/灰白色) ③白色粒 ④底部 1/4	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：体部回転ナデ→下縁手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。内面：体部→底部回転ナデ。	
11	須恵器 環	口径 (10.2) 底径 (7.0) 器高 3.3	①還元焰 ② (灰白色/灰白色) ③黒色粒・白色粒 ④底部 1/6	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：口縁部→体部回転ナデ→下縁手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。内面：口縁部→底部回転ナデ。	
12	須恵器 壺	口径 (18.8) 底径 — 器高 [4.0]	①還元焰 ② (灰白色/灰白色) ③黒色粒・白色粒 ④口縁部 1/5	成形：粘土組織み上げ→ロケロ整形。外面：口縁部回転ナデ→櫛波状文 (B 本束)。内面：口縁部回転ナデ。	
13	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	①還元焰 ② (灰白色/灰白色) ③白色粒 ④胴部破片	成形：粘土組織み上げ→甲き。外面：胴部甲き (平行甲き目)。内面：胴部当て道具痕 (青海波文) →ナデ。	

第6表 S1-6 出土遺物観察表

めぐる。床面の状態：おおむね平坦である。検出範囲は、おしなべて硬化面に覆われていた。床下土坑の上面も、微弱ながら硬化が認められた。カマド：確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。遺構埋没状態：ロームブロックなどを含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。

掘り方：ロームブロックを含む褐色土により貼り床が構築されている。底面は細かな凹凸をもつ。遺物出土状態：床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する観がある。時期：飛鳥時代後半（7世紀末）と推定される。遺物：土師器環・甕、須恵器環が出土している。



- SI-7
 1 暗褐色土 ロームブロック（径10～40mm）を中量、As-IPの粒子（径2～8mm）を少量、焼土粒（径2～6mm）を微量含む。しまり、粘性ともあり。
 2 褐色土 ロームブロック（径10～50mm）を多量、As-IPの粒子（径2～8mm）を中量含む。しまり、粘性ともやや強。床下土坑の埋土。
 3 褐色土 ロームブロック（径10～100mm）を多量、As-IPの粒子（径2～8mm）を中量含む。しまり、粘性とも強。床土。

第20図 SI-7・SI-7 出土遺物

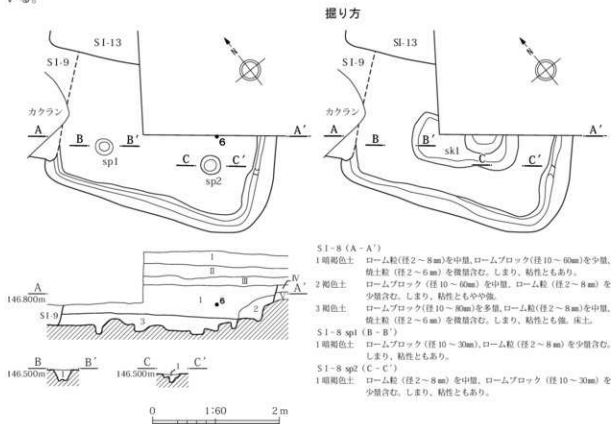
番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器環	口径 12.6 底径 8.8 器高 3.5	①還元焼 ② (暗灰色/灰色) ③白色粒 ④ 5/6	成形：粘土細積み上げ→ロクロ整形。外面：口縁部回転ナデ。底部手持ちヘラケズリナデ。内面：回転ナデ。	口縁部内面に重ね焼き痕あり。

第7表 SI-7 出土遺物観察表

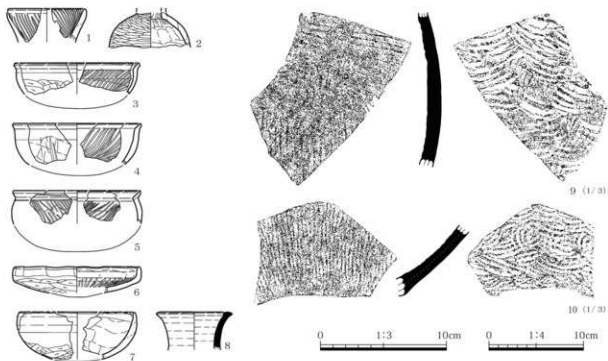
SI-8 (第21～23図、第8表、PL.5・6・11)

位置：B-1・C-1・2。平面形態：長方形と推測される。重複：SI-9・13と重複し、これより古い。規模：南東～北西方向に3.65m、南西～北東方向に1.70m残存する。残存深度：0.52mを測る。主軸方位：N-65°-E。柱穴：sp1・2とした2基が確認されている。壁周溝：東壁から西壁にかけてめぐる。床面の状態：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。カマド：確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。遺構埋没状態：シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。掘り方：白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。遺

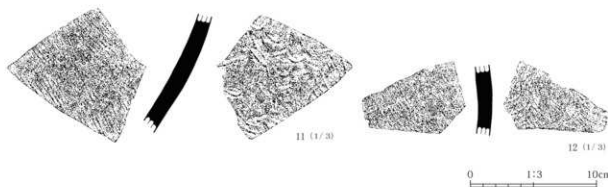
物出土状態:床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する観がある。**時期:**古墳時代後期(5世紀末)と推定される。**遺物:**土師器環・埴・鉢・小型甕・甕、須恵器環身・高台環・壺・甕が出土している。



第21図 SI-8



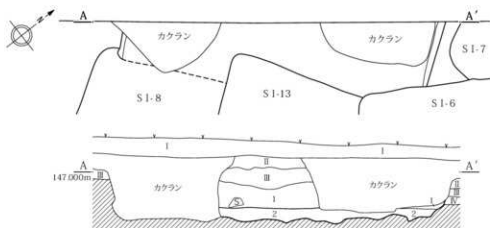
第22図 SI-8 出土遺物(1)



第23図 SI-8 出土遺物(2)

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (内/外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 直口甕 底径 器高	(8.0) — (3.5)	①酸化焼 ②(明赤褐色/にぶい赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒 ④口縁部1/4割	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ→斜行暗文。内面:口縁部ヨコナデ→斜行暗文。	口縁部外面に黒斑あり。
2	土師器 小形 直口甕 器高	— — (3.7)	①酸化焼 ②(褐色/にぶい褐色) ③褐色粒・白色粒 ④胴部上半1/2	成形:粘土組織み上げ。外面:胴部ミガキ。内面:ナデ(上端にシボリ目を残す)。	
3	土師器 内斜 口縁杯 底径 器高	(13.0) — (3.3)	①酸化焼 ②(灰褐色/明褐色) ③褐色粒・白色粒・輝石 ④口縁部1/6	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ→斜行暗文。	
4	土師器 内斜 口縁杯 器高	(13.4) — (4.3)	①酸化焼 ②(明赤褐色/明赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・角閃石・輝石 ④体部1/8	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ→斜行暗文。	体部外面に刀傷状のキズと擦痕あり。
5	土師器 内斜 口縁杯 底径 器高	(13.4) — (3.5)	①酸化焼 ②(明褐色/明褐色) ③褐色粒・白色粒・角閃石・輝石 ④体部1/8	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ→暗文(体部斜行→頸部横線)。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ→斜行暗文。	口縁部のヨコナデは、内外面同時に断続して左回りに行う。
6	土師器 模倣杯 底径 器高	(13.0) — (2.7)	①酸化焼 ②(黄灰色/褐色) ③白色粒・角閃石 ④1/3	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ(断続的左回り)。体部ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ(断続的左回り)。体部ナデ→放射状暗文。	口縁部内外面のヨコナデの静止点は一致する。
7	土師器 内湾 口縁杯 底径 器高	(12.0) — (5.0)	①酸化焼 ②(にぶい赤褐色/黒褐色) ③白色粒・石英粒・輝石 ④1/4	成形:粘土組織み上げ→口クロ整形。外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	体部外面煤付痕。
8	須恵器 瓶 底径 器高	(7.0) — (4.0)	①還元焼 ②(灰色/灰色) ③白色粒・黒色粒 ④口縁部1/10	成形:粘土組織み上げ→口クロ整形。外面:口縁部縦ナデ。内面:口縁部縦ナデ。	口縁部内外面隆起による自然釉が掛かる。
9	須恵器 甕 底径 器高	— — —	①還元焼 ②(黄灰色/灰褐色) ③褐色粒・白色粒・黒色粒 ④胴部破片	成形:粘土組織み上げ→印き。外面:印き(平行印き目)→ナデ。内面:当て道具痕(青海波文)を残す。	
10	須恵器 甕 底径 器高	— — —	①還元焼 ②(灰白色/灰白色) ③白色粒・黒色粒 ④胴部破片	成形:粘土組織み上げ→印き。外面:印き(平行印き目)。底部ナデ。内面:当て道具痕(青海波文)を残す。	
11	須恵器 甕 底径 器高	— — —	①還元不良 ②(褐色/にぶい褐色) ③褐色粒・白色粒 ④胴部破片	成形:粘土組織み上げ→印き。外面:印き(平行印き目)→難なナデ。内面:当て道具痕(青海波文)→難なナデ。	
12	須恵器 甕 底径 器高	— — —	①還元焼 ②(灰色/灰色) ③褐色粒・白色粒 ④胴部破片	成形:粘土組織み上げ→印き。外面:印き(平行印き目)。底部ナデ。内面:当て道具痕(青海波文)を残す。	

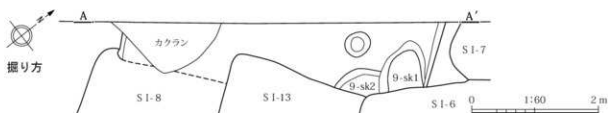
第8表 SI-8 出土遺物観察表



S1-9 (A-A')

1 暗褐色土 As-IPの粒子 (径2~8mm) を中量、ロームブロック (径10~40mm) を少量、焼土粒 (径2~8mm)、炭化物粒 (径2~8mm) を微量含む。しまり、粘性ともあり。

2 褐色土 As-IPの粒子 (径2~8mm) を多量、ロームブロック (径10~40mm) を中量、焼土粒 (径2~6mm) を微量含む。しまり、粘性ともやや強。床土。



第24図 S1-9



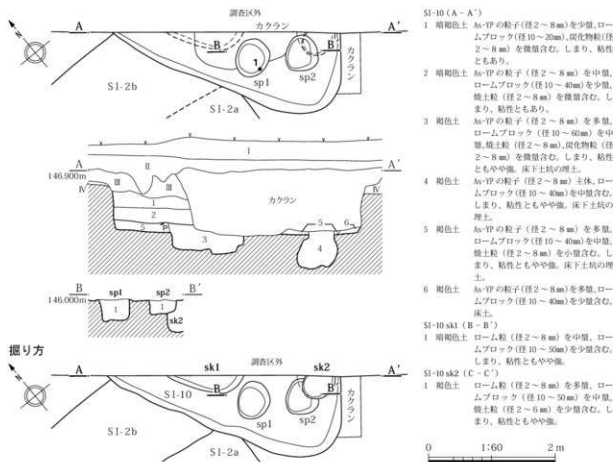
第25図 S1-9 出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 (内/外) ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 模倣杯	口径 底径 器高 (13.0) — [3.2]	①酸化焼 ② (灰黄褐色 / 黒色) ③白色粒・石英粒 ④口縁部1/8	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ミガキ。	内面黒色処理。
2	土師器 模倣杯	口径 底径 器高 (12.0) — [4.5]	①酸化焼 ② (黒褐色 / 暗褐色) ③白色粒 ④ 1/3	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	

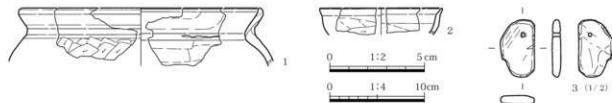
第9表 S1-9 出土遺物観察表

S1-9 (第24・25図、第9表、PL. 6・11)

位置: B-1・2、C-1。 **平面形態:** 長方形と推測される。 **重複:** S1-6・8・13と重複し、これより新しい。 **規模:** 南東～北西方向に1.92m、南西～北東方向に4.86m残存する。 **残存深度:** 0.13mを測る。 **主軸方位:** 不明。 **柱穴:** 確認されていない。 **壁周溝:** 確認されていない。 **床面の状態:** おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド:** 確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。 **遺構埋没状態:** シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 **掘り方:** 白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。 **遺物出土状態:** 床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する観がある。 **時期:** 古墳時代後期 (6世紀後半) と推定される。 **遺物:** 土師器環・裏が出土している。



第26図 S1-10



第27図 S1-10出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成や色調 (内/外) ②胎土③残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	土師器 大形鉢	口径 (25.0) 底径 — 器高 (6.1)	①酸化焼 ②(明赤褐色/明赤褐色) ③褐色粒・白色粒・輝石 ④口縁部 1/8	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。 デークズリ。内面: 口縁部ヨコナデ (左回り)。胴部ヘラナデ。		
2	土師器 内胴 口縁杯	口径 (12.8) 底径 — 口縁杯 器高 (2.8)	①酸化焼 ②(にふい)褐色/褐色 ③褐色粒・白色粒・石英粒・輝石 ④口縁部 1/10	成形: 粘土組織み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。胴部ナデークズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。		
番号	器種	長さ・幅・厚さ・重さ/材質/残存度/成・整形技法の特徴			備考	
3	石製 模造品	長さ 3.0, 最大幅 1.8, 厚さ 0.47, 重さ 4.5g	雨石/完形/各面とも雑な研磨。片面穿孔。			

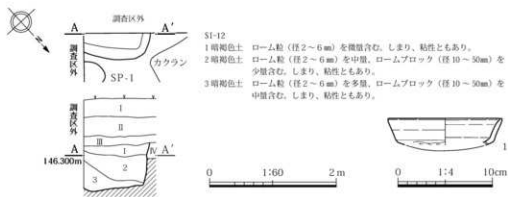
第10表 S1-10出土遺物観察表

SI-10 (第26・27図、第10表、PL.6・11)

位置: C-2、D-2・3。 **平面形態:** 長方形と推測される。 **重複:** SI-2と重複し、これより新しい。 **規模:** 南東～北西方向に3.73 m、南西～北東方向に1.49 m残存する。 **残存深度:** 0.48 mを測る。 **主軸方位:** N-65°-E。 **柱穴・土坑:** 柱穴はsp1・2のいずれかが、柱穴となる可能性がある。また、土坑は床下土坑が2基確認されている。 **壁周溝:** 確認されていない。 **床面の状態:** おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド:** 確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。 **遺構埋没状態:** シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 **掘り方:** 白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。 **遺物出土状態:** 床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する窠がある。 **時期:** 平安時代以降(9世紀以降か)と推定される。 **遺物:** 土師器環・埴、石製模造品、近世陶器が出土している。

SI-11 (第13・14図、PL.6)

位置: B・C-3。 **平面形態:** 不明。 **重複:** SI-5と重複し、これより古い。 **規模:** 東西方向に0.85 m、南北方向に0.50 m残存する。 **残存深度:** 0.56 mを測る。 **主軸方位:** 不明。 **柱穴・土坑:** 確認されていない。 **壁周溝:** 確認されていない。 **床面の状態:** おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド:** 確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。 **遺構埋没状態:** シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 **掘り方:** 白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。 **遺物出土状態:** 床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する窠がある。 **時期:** 不明。 **遺物:** 確認されなかった。



第28図 SI-12・SI-12出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成2色調 (内/外) ③粘土4残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 模倣杯	口径 底径 器高 (11.8) — [2.8]	①酸化焼 ②(橙色/橙色) ③褐色粒・白色粒 1/6	成形:粘土細積み上げ、外面:口縁部ココナデ、体部ケズリ。 内面:口縁部-体部ココナデ。	

第11表 SI-12出土遺物観察表

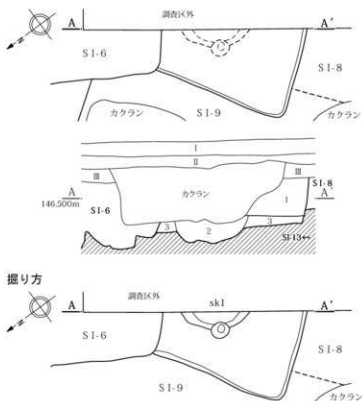
SI-12 (第28図、第11表、PL.6・11)

位置: E-5・6。 **平面形態:** 不明。 **重複:** 単独で確認されている。 **規模:** 南東～北西方向に1.01 m、

南西～北東方向に0.53 m残存する。 **残存深度**：0.72 mを測る。 **主軸方位**：不明。 **柱穴**：確認されていない。 **壁周溝**：確認されていない。 **床面の状態**：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド**：確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。 **遺構埋没状態**：シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 **掘り方**：白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。 **遺物出土状態**：床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する観がある。 **時期**：古墳時代後期（7世紀前半）と推定される。 **遺物**：土師器環・甕・大型甕が出土している。

S1-13 (第29・30図、第12表、PL.6・12)

位置：C-1。 **平面形態**：不明。 **重複**：S1-6・8・9と重複し、S1-6・9より古く、S1-8より新しい。 **規模**：南東～北西方向に1.55 m、南西～北東方向に2.16 m残存する。 **残存深度**：0.60 mを測る。 **主軸方位**：不明。 **柱穴・土坑**：柱穴は確認されていない。土坑は床下土坑が1基確認されている。 **壁周溝**：確認されていない。 **床面の状態**：おおむね平坦である。明瞭な硬化面が認められず、残存状態の良好な遺物のレベルなども手がかりとして床を認識している。 **カマド**：確認されなかった。調査区外に潜在しているものと推測される。 **遺構埋没状態**：シルトを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と推測される。 **掘り方**：白色の軽石粒、炭化物粒、焼土粒を微量含む暗褐色土により床が構築されている。掘り方の底面は細かな凹凸をもつ。 **遺物出土状態**：床面直上または埋土下層に集中する。平面的には、散在する観がある。 **時期**：古墳時代後期（6世紀後半）と推定される。 **遺物**：土師器環・小型甕・甕が出土している。

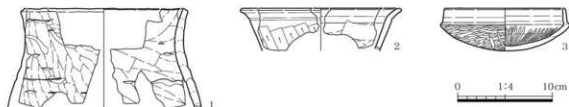


S1-13

- 1 暗褐色土 As-YFの粒子（径2～8mm）を中量、ロームブロック（径10～20mm）を少量、焼土粒（径2～6mm）を微量含む。しまり、粘性ともあり。
- 2 褐色土 As-YFの粒子（径2～8mm）を多量、ロームブロック（径10～50mm）を中量含む。しまり、粘性ともやや強。床下土坑の埋土。
- 3 褐色土 As-YFの粒子（径2～8mm）を多量、ロームブロック（径10～40mm）を少量含む。しまり、粘性とも強。床土。

0 1:60 2m

第29図 S1-13

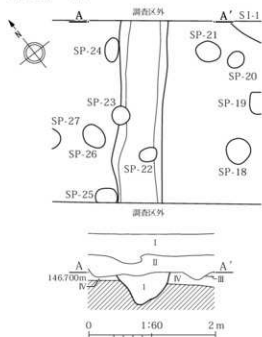


第30図 SI-13出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成や色調 (内/外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 (16.8) 底径 — 器高 [10.0]	①酸化焼 ② (明赤褐色/明赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・角閃石・輝石 ④上半 1/5	成形: 粘土粗積み上げ。外面: 口縁部～胴部ナデ。内面: 口縁部～胴部ヘラナデ。	
2	土師器 小形鉢	口径 (16.6) 底径 — 器高 [4.5]	①酸化焼 ② (赤褐色/赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・角閃石・輝石 ④口縁部 1/6	成形: 粘土粗積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ケズリ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
3	土師器 模倣杯	口径 (12.6) 底径 — 器高 4.5	①酸化焼 ② (にぶい赤褐色/にぶい赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒 ④ 1/2	成形: 粘土粗積み上げ。外面: 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ→放射状暗文。	

第12表 SI-13出土遺物観察表

第3節 溝

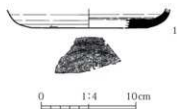


SD-1
1期灰色土 As-Sの粒子 (径2～8mm) を多量、ローム粒 (径2～8mm) を少量、埴土粒 (径2～6mm) を微量含む。しまり、粘性ともやや弱。

第31図 SD-1

SD-1 (第31・32図、第13表、PL. 7・12)

位置: E-4。遺構西部は調査区外となる。 **重複:** SP-22～25。 **形態:** 北東～南西方向に走向し、底面は北東側が低い。断面逆台形を呈する。 **主軸方位:** N-40°-E。 **計測値:** 検出長 [2.86] m、検出幅 0.66～0.81 m、確認面からの深さ 0.22～0.28 m。 **埋没状態:** 埋土中に A s-A を含む。主として褐色土が堆積している。 **遺物:** 土師器環・甕、須恵器環身・壺・甕が出土している。 **時期:** 埋没状態より、近世以降と推定される。



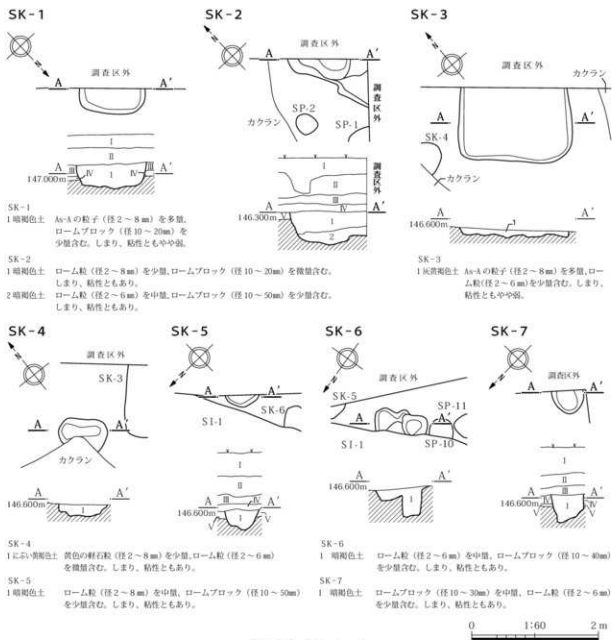
第32図 SD-1出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成や色調 (内/外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 環	口径 — 底径 (12.0) 器高 [2.0]	①還元焼 ② (黄灰色/灰色) ③白色粒 ④底部 1/6	成形: 粘土粗積み上げ→ロケロ整形。外面: 体部回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。内面: 体部～底部回転ナデ。	

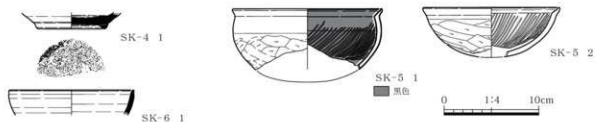
第13表 SD-1 出土遺物観察表

第4節 土坑・ピット (土坑：第33・34図、第14・15表、PL.7・12 ピット：第16・17表)

前述のとおり、本節においては個別の土坑・ピットに関する記載を省略し、検出遺構・代表的な出土遺物の図と所見をまとめた一覧表の掲載にとどめることとする。



第33図 SK-1~7



第34図 SK-4~6 出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (内/外) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
SK-4 1	須恵郡 高台付 環	口径 高台部径 器高 (7.4) 1.7	①還元胎 ②(灰白色/灰白色) ③白色粒・黒色粒 ④底部 1/2	成形:粘土組織み上げ→ロクロ整形。高台部附付け。外面 体部~高台部回転ナデ。底部回転糸切り。内面:体部~ 底部回転ナデ。	
SK-5 1	土師器 内斜 口縁環	口径 底径 器高 (15.6) [6.4]	①酸化胎 ②(明赤褐色/黒色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・ 輝石 ④口縁部 1/4	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部~体部上半ヨコナデ。 体部下半ケズリ→ナデ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナ デ→斜行暗文。	内面黒色処理。
SK-5 2	土師器 内斜 口縁環	口径 底径 器高 (14.2) — [5.2]	①酸化胎 ②(明赤褐色/ふ い赤褐色) ③褐色粒・白色流 石英粒・輝石 ④ 2/3	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部~ヨコナデ。体部 ナデ→ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ→斜行 暗文。	上半内外面煤付 着。
SK-6 1	須恵郡 環	口径 底径 器高 (13.0) — [2.6]	①酸化胎 ②(灰色/灰色) ③白色粒 ④口縁部 1/8	成形:粘土組織み上げ成形。外面:口縁部回転ナデ。内面: 口縁部回転ナデ。	内面に障灰付着。

第14表 SK-4~6 出土遺物観察表

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	平面規模 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期	備考
SK-1	C-1	—	隅丸方形か 隅丸長方形	逆台形	1.05 × [0.42]	0.40	土師器(環・甕)	近世以降	埋土中にAs-Aを含む。
SK-2	D-E-6	—	不明	不明	[1.50] × [0.70]	0.53	土師器(環・甕)	古墳時代後期(6 世紀)以降	
SK-3	C-4-5	—	隅丸方形か 隅丸長方形	逆台形	1.85 × [1.20]	0.13	土師器(環・甕)	古墳時代後期(5 世紀)以降	
SK-4	C-4	—	不整楕円形	逆台形	0.78 × [0.50]	0.14	土師器(環)、須恵 器(坏身・高台付環)	平安時代前期 (10世紀前半) 以降	カクランに壊され る。
SK-5	E-5	—	不明	逆台形	[0.55] × [0.20]	0.32	土師器(環・甕)	古墳時代後期(5 世紀末)以降	
SK-6	E-5	S1-1	不整形	不明	0.84 × [0.36]	0.45	土師器(鉢・甕)、 須恵器(坏身)	6世紀前半以降	
SK-7	F-4	—	不明	不明	0.51 × [0.38]	0.44	土師器(環・甕)	不明	土師器小片2点が 古墳時代後期(5世 紀末~6世紀前半)。

第15表 土坑一覧表

遺構名	位置	平面形	平面規模 (a)		深さ (a)	出土遺物	時期	備考
			長径	短径				
SP-1	E-6	不明	[0.46]	[0.34]	0.15			
SP-2	E-5・6	不整形円形	0.34	0.30	0.15			
SP-3	D-5・6	不整楕円形	0.42	0.34	0.13			
SP-4	D-5	不整楕円形	0.30	0.23	0.19			
SP-5	D-5	不整楕円形	0.48	0.38	0.63			
SP-6	C-4	不整形円形	0.37	0.34	0.18	土師器甕	古墳時代後期以降	
SP-7	C-3・4	不整形円形	0.47	0.45	0.32			
SP-8	C-4	不整形円形	0.37	0.34	0.39	土師器環・甕		
SP-9	C-3・4	楕円形	0.42	0.31	0.39			
SP-10	E-5	不明	0.38	[0.29]	0.13			S1-1と重複
SP-11	E-5	不整形円形	0.41	0.38	0.17			
SP-12	E-4・5	不整楕円形	0.35	0.25	0.14			SP-13と重複
SP-13	E-4	不整形円形	0.46	0.42	0.27			SP-12と重複
SP-14	F-4	不整形円形	0.48	0.40	0.29			
SP-15	E-4	楕円形	0.40	0.33	0.23			
SP-16	E-5	不明	[0.26]	[0.15]	0.61	土師器甕		S1-1と重複
SP-17	E-4	不明	0.38	[0.16]	0.42			
SP-18	E-4	円形	0.39	0.39	0.33			
SP-19	E-4	不整形円形	0.35	0.34	0.41			
SP-20	E-4	楕円形	0.29	0.24	0.15			
SP-21	E-4	楕円形	0.40	0.33	0.28			
SP-22	E-4	不整楕円形	0.29	0.22	0.39			SD-1と重複

第16表 ビット一覧表(1)

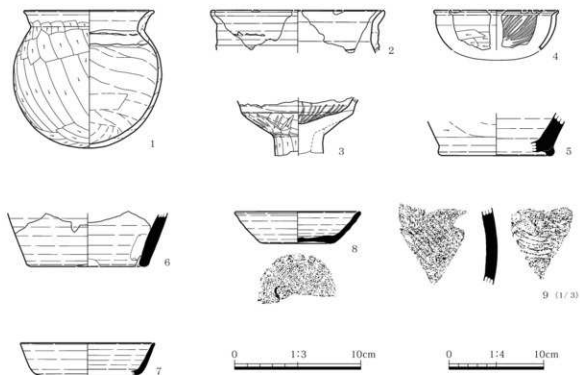
遺構名	位置	平面形	平面規模 (m)		深さ (m)	出土遺物	時期	備考
			長径	短径				
SP-23	E-4	円形	0.29	0.29	0.41			SD-1と重複
SP-24	E-4	楕円形	0.39	0.22	0.26			SD-1と重複
SP-25	E-4	不明	0.35	[0.23]	0.33			SD-1と重複
SP-26	E-4	楕円形	0.41	0.31	0.29			
SP-27	E-3・4	円形	0.35	0.34	0.28			
SP-28	E-3	楕円形	0.36	0.24	0.23			
SP-29	E-4	不整楕円形	0.31	0.25	0.32			
SP-30	D・E-4	円形	0.35	0.32	0.19			
SP-31	D・E-4	不整楕円形	0.38	0.33	0.20			
SP-32	D-3・4	不整楕円形	0.41	0.33	0.26			
SP-33	D-3	円形	(0.29)	(0.28)	(0.43)			S1-2a・SP-34と重複
SP-34	D-3	円形	0.46	0.46	0.12			S1-2a・SP-33と重複
SP-35	B・C-3	楕円形	0.30	0.25	0.47			

第17表 ビット一覧表(2)

第5節 遺構外出土遺物 (第35図、第18表、PL.12)

遺構埋土以外の箇所から出土した遺物のほとんどは、縄属時期が古墳時代後期～平安時代、竪穴建物跡の時期幅とほぼ軌を一にしている。調査区周辺では、近代以降の擾乱が複数及んでおり、建物跡およびその埋土が随所で毀損されている。遺構外出土遺物は、その多くが本来であれば竪穴建物跡に由来するも、擾乱によって周囲に四散したものと考えられる。

本節では、実測可能な個体を厳選して掲載する。



第35図 遺構外出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成色調 (内/外) ②胎土③残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 丸底甕	口径 底径 器高 (13.6) — (14.6)	①酸化焰 ②(赤暗褐色/にぶい赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英・片岩 ④3/4	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	外面被熱、煤付着。内面ヨゴレ。
2	土師器 甕	口径 底径 器高 (18.0) — (4.5)	①酸化焰 ②(赤褐色/赤褐色) ③褐色粒・白色粒・輝石 ④口縁部1/5	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。	
3	土師器 高环	口径 底径 器高 — (6.2)	①酸化焰 ②(明赤褐色/明赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒・輝石 ④1/4	成形:粘土組織み上げ。ほぞ継ぎ接合。外面:口縁部ヨコナデ。環部ケズリ→ヘラナデ→暗文風ミガキ。脚部ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。環部ナデ→放射状暗文。	環部内面の放射状暗文は、一部窟歯状や筒格子状になっている。
4	土師器 内竈 口縁环	口径 底径 器高 (13.0) — (4.2)	①酸化焰 ②(にぶい赤褐色/赤褐色) ③褐色粒・白色粒・石英粒 ④口縁部1/9	成形:粘土組織み上げ。外面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。体部ナデ→斜行暗文。	内外面煤付着。
5	須恵器 高台付 甕	口径 高台径 器高 — (12.2) (4.5)	①還元焰 ②(灰色/灰色) ③白色粒・黒色粒 ④底部1/4	成形:粘土組織み上げ→ロクロ整形。高台部貼付け。外面:胴部下端回転ヘラケズリ。高台部回転ナデ。内面:胴部→底部回転ナデ。	
6	須恵器 甕	口径 底径 器高 — (12.0) (5.8)	①還元焰 ②(灰色/灰白色) ③白色粒・黒色粒 ④底部1/4 崩	成形:粘土組織み上げ→叩き?。外面:叩き?→回転ナデ。内面:回転ナデ。	多孔瓶であった可能性あり。
7	須恵器 环	口径 底径 器高 (14.0) — (3.5)	①還元焰 ②(黄灰色/黄灰色) ③白色粒 ④口縁部1/10	成形:粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面:口縁部→体部回転ナデ。内面:口縁部→体部回転ナデ。	
8	須恵器 环	口径 底径 器高 (13.0) 7.8 3.4	①還元焰 ②(灰色/灰色) ③白色粒・白色粒 ④1/2 崩	成形:粘土組織み上げ→ロクロ整形。外面:口縁部→体部回転ナデ。底部回転赤切り。内面:口縁部→底部回転ナデ。	
9	須恵器 甕	口径 底径 器高 — — —	①還元焰 ②(淡緑灰色/褐灰色) ③黒色粒・白色粒 ④胴部破片	成形:粘土組織み上げ→叩き。外面:胴部叩き(平行叩き目)。内面:当て道具痕(青海波文)。	外面に淡緑色の自然釉が掛かる。

第 18 表 遺構外出土遺物観察表

VI まとめ

今回の調査では、主要な遺構として竪穴建物跡 14 軒が検出された。帰属時期は古墳時代～平安時代、5 世紀後半～9 世紀前半と幅がある。本編の末尾にあたり、竪穴建物跡に関する所見を改めて整理しておく。

検出範囲がまちまちではあるものの、大半の建物跡の掘り方には床下土坑と思われる掘り込みが設けられている。整理調査の段階において、それらの掘り込みに「sk2」などの個別番号を与えている。最も多く床下土坑が検出されたのは S I - 5 の 7 基で、S I - 6 の 6 基がこれに次ぐ。

S I - 1-sk2 や S I - 5-sk2 のような、建物跡の中央付近に位置する平面円形で大きめの掘り込みは、床下土坑の典型とみて差し支えない。一方、S I - 2a: sk1 のように建物跡の縁辺にて深く掘り込まれた例も少数ながら認められる。

竪穴建物跡に付帯する床下土坑の性格については諸説あるが、ひとつの有力な説としてカマドの部材であるロームを調達する際の供給源との見方がある。竪穴建物のライフサイクル、構築、補修・造り替え、廃絶に至る過程において用いられる労力は、偶然の要素を含めて各遺構の程度差が大きいであろう。掘り込みの数・規模とカマド部材の量との間に有意な相関関係は容易に見出しえないことを承知しつつ、ここでひとつの予察を記しておきたい。すなわち、床下土坑には、カマド構築材採取を目的とする例のほか、土師器をはじめとする土器・土製品製作の材料調達は目的とした、いわゆる粘土採掘坑に類似するものが一部含まれるという可能性である。

同じ竪穴建物内のカマド構築材を採取する目的で床下土坑を設ける場合、土坑の掘削→埋め戻し→貼り床の順で施工が行われたことが想定される。また、土器材料の採取を目的として竪穴建物完成以降に床下土坑を掘削し

た場合は、上記の貼り床の工程が確認できないこととなる。

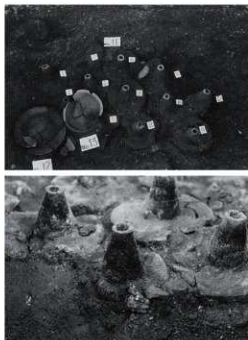
上述の例に再び触れると、① S I - 1 sk2 や S I - 5 sk2 は、埋土上面に微弱な硬化が認められるほか、底面のレベルが基本層序のVI層中位に設けられるのに対し、② S I - 2 a - s k 1 は埋土上位に硬化面をもたず、底面の層準がVII層ないしVIII層に相当している。①と②は別種の素材を生成することを意図してそれぞれの土壌を採取していた蓋然性が高く、①はカマダの構築材、②は土器材料の採取を目的とした床下土坑と考えるのが、より自然と思われる。

床下土坑の一部が土器の素材調達を目的としていたことに関し、近在においてそれを傍証する事例は見出せるであろうか。複数の列挙は難しいが、本遺跡の600mあまり東に位置する中原遺跡第1次調査例を挙げることはできよう。同遺跡の167号住居（5世紀後半代）は、坏部との接合を直前に控えた未焼成の高坏脚部12個と粘土塊、作業台とおぼしき扁平な石が残置された状態で出土しており、当該箇所ないしその近辺で土器づくりが行われていたことを如実に示している。集落において臨機的に土器素材の調達が行われた状況を示唆する事象として、注目に値すると思われる。

今回の調査成果が、周辺集落遺跡の実態解明に向けての一助となることを祈念しつつ、結語に代えたい。

〔主要参考文献〕

- 群馬県教育委員会 1963 『上野国八幡観音塚古墳調査報告書』群馬県埋蔵文化財調査報告書1
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2023 『本郷上ノ台遺跡・本郷満行原遺跡・本郷広神遺跡・本郷西谷津遺跡・本郷大力サ遺跡・本郷鶴窪遺跡・本郷笠原遺跡・本郷鴨上遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書722
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2023 『下里見天神前遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書709
高崎市教育委員会 1982 『八幡中原遺跡』高崎市文化財調査報告書31
高崎市教育委員会 1984 『七五三引遺跡』
高崎市教育委員会 1989 『八幡遺跡』高崎市文化財調査報告書91
高崎市遺跡調査会 1998 『八幡二子塚遺跡』高崎市遺跡調査会報告書71
高崎市遺跡調査会 1998 『剣崎稲荷塚遺跡』高崎市遺跡調査会報告書72
高崎市教育委員会 2004 『剣崎長湊西遺跡2』高崎市文化財調査報告書190
高崎市教育委員会 2011 『八幡中原遺跡3』高崎市文化財調査報告書282
高崎市教育委員会 2016 『剣崎稲荷塚遺跡』高崎市文化財調査報告書374
高崎市教育委員会 2021 『若田坂上遺跡』高崎市文化財調査報告書257
高崎市史編さん委員会 1996 『新編高崎市史 資料編3 中世I』
高崎市史編さん委員会 1999 『新編高崎市史 資料編1 原始古代I』
高崎市史編さん委員会 2000 『新編高崎市史 資料編2 原始古代II』
高崎市史編さん委員会 2003 『新編高崎市史 通史編1 原始古代』
仙毛野考古学研究所 2013 『八幡中原遺跡4』高崎市文化財調査報告書第303集
仙毛野考古学研究所 2019 『海竜寺2遺跡』



参考写真 中原遺跡第1次調査 未焼成土器
※『新編高崎市史 資料編2 原始古代II』より転載

写真図版



調査区全景（上が北側）



調査区遠景（北西から）



S1-1 (南から)



S1-1 振り方 (北東から)



S1-1 遺物出土状況 (南から)



S1-1 遺物出土状況 (近接、西から)



S1-1 sk1・sp1 (東から)



S1-1 sk3 (北から)



S1-1・SK-6・SP-10～13・16 (南から)



S1-2a・2b・10 (東から)



S1-2a・2b 掘り方 (東から)



S1-2a・2b 遺物出土状況 (南西から)



S1-2a 遺物出土状況 (1) (北西から)



S1-2a 遺物出土状況 (2) (北西から)



S1-2a カマド (西から)



S1-2b カマド (東から)



S1-2b カマド掘り方 (東から)



S1-2b sk1 遺物出土状況 (北西から)



S1-3 (北から)



S1-4 遺物出土状況 (東から)



S1-4 掘り方 (東から)



S1-5 遺物出土状況 (北から)



S1-5 掘り方 (東から)



S1-6・7 (東から)



S1-6 掘り方 (西から)



S1-6 遺物出土状況 (I) (西から)



S1-6 遺物出土状況 (2) (西から)



S1-6 遺物出土状況 (3) (南東から)



S1-6 カマド (南から)



S1-6 カマド掘り方 (南から)



S1-7 (東から)



S1-7 掘り方 (東から)



S1-7 ski 遺物出土状況 (東から)



S1-8 遺物出土状況 (南から)



S1-8 土層断面 (南西から)



S1-9 掘り方 (南西から)



S1-10 (南から)



S1-10 炭化物出土状況 (南東から)



S1-11 (北東から)



S1-12 (北西から)



S1-13 (南西から)



S1-13 掘り方 (南西から)



SD-1 (北が上)



SK-1 (北から)



SK-2 (北西から)



SK-3 (南東から)



SK-4 (南東から)



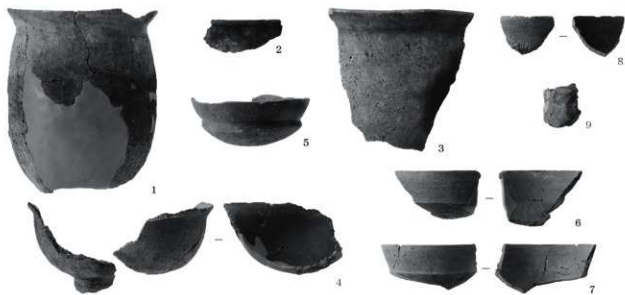
SK-5 土層断面 (西から)



SK-6 土層断面 (西から)



SK-7・SP-14・15 (西から)



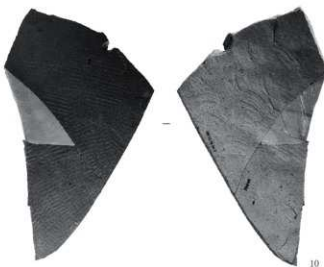
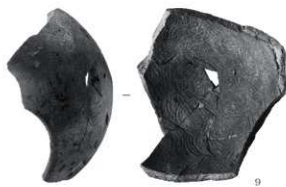
S1-1 出土遺物



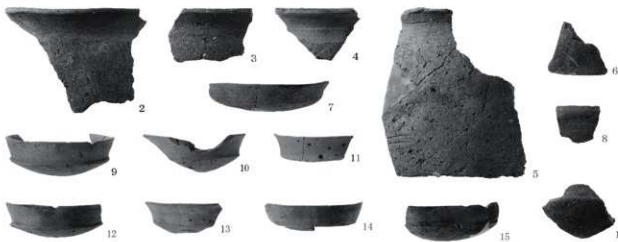
S1-2a・2b 出土遺物 (1)



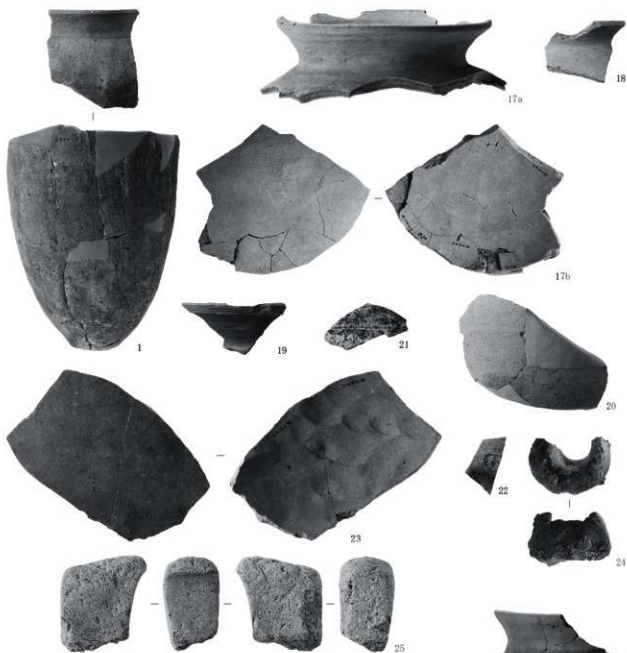
SI-2a・2b 出土遺物 (2)



SI-4 出土遺物



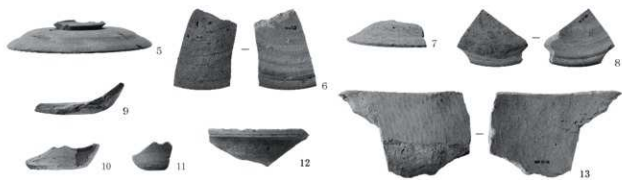
SI-5 出土遺物 (1)



SI-5 出土遺物 (2)



SI-6 出土遺物 (1)



SI-6 出土遺物 (2)



SI-7 出土遺物



SI-8 出土遺物



SI-9 出土遺物



SI-10 出土遺物



SI-12 出土遺物



SI-13 出土遺物



SD-1 出土遺物



SK-4 出土遺物



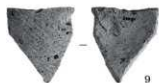
SK-6 出土遺物



SK-5 出土遺物



遺構外出土遺物



9

報告書抄録

フリガナ	ワカタシミズクボイセキ
書名	若田清水久保遺跡
副書名	防災ステーション建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第510集
編著者名	和久裕昭
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 ☎027-265-1804
発行機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行年月日	令和6年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
ワカタシミズクボイセキ 若田清水久保遺跡	群馬県高崎市 若田町字清水 久保70番1	102020	888	36° 20' 42"	138° 56' 08"	20240304 ～ 20240404	167.5 m ²	防災ステーション建設 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
若田清水久保 遺跡	集落	古墳時代 奈良・平安時代	建物跡 溝 土坑 ピット	14軒 1条 7基 35基	土師器 須恵器 石製品 石製模造品 羽口 鉄滓	古墳時代～平安時代(5世紀後半～9世紀前半)と、幅広い時期にわたる集落跡が確認された。

高崎市文化財調査報告書第510集

若田清水久保遺跡

— 防災ステーション建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

令和6年9月24日印刷

令和6年9月30日発行

編集 / 有限会社 毛野考古学研究所
発行 / 有限会社 毛野考古学研究所
印刷 / 朝日印刷工業株式会社